

神緑会ニュースレター

第6巻 第4号

発行日 2015年3月9日



神戸大学医学部附属地域医療活性化センター外観



神戸大学医学部附属病院低侵襲総合診療棟 外観

目次	ページ
平成26年度臨時（社員）総会と 平成27年新春学術講演会 —成功裏での終了と情報交換会—	3
物故会員リスト	4
講演—I シグナル伝達研究の伝統と発展 的崎 尚	7
講演—II ヒト体細胞核初期化の分子機構 高橋 和利	8
阪神・淡路大震災メモリアル事業 竹村 幸洋 井上 立崇 千原 和夫 中山 伸一 藤原 恵	9
新任教授・病院長・栄誉者紹介	12
情報交換会	14
神緑会活動の現状を変えるホームページ更新 の取り組み 神緑会理事会	15
新しいHPに期待すること 力武 良行 秦 明登 池田 太郎	16
神緑会HPのリニューアル 情報委員会 委員長 宮本 正喜 他	17

目次	ページ
ホームページのユーザー名（ID）及び パスワードの入力方法等 神緑会事務局	23
京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 便り 筋ジストロフィー治療 渡邊 文隆	25
昭和26年3月卒業生の恩師のアルバム集 神経発生学分野教授 寺島 俊雄	29
歴史展示2 記念誌編集委員会	41
行政だより ④保険医療材料制度の概要 厚生労働省保険局 先進・再生医療特別評価推進係長 松本 千寿	43
病院紹介 バルモア病院の新しい船出 理事長 前田 隆史 院長 山崎 峰夫 他	46
選挙管理委員会の発足	48
第29回日本医学会総会2015関西、参加のお願い	48
編集後記	48

神 緑 会 の 皆 様 へ



ジ・アーバネックス神戸大倉山

THE Urbanex Kobe Okurayama



80.55² m² モデルルーム
公開中!
ワイドスパンの広々住まいをご体感ください!

神戸市営地下鉄西神・山手線

「大倉山」駅 徒歩 2 分

JR東海道本線

「神戸」駅 徒歩 9 分

※掲載の外観完成予想図は大倉山公園噴水前より北方向を撮影した周辺写真(平成26年9月撮影)に、計画段階の図面を基に描き起こした建物完成予想図をCG合成・加工したもので、実際とは異なります。

神戸大学医学部附属病院のほど近くに、
緑に囲まれた29邸の新築分譲マンションが
誕生します。

ジ・アーバネックス神戸大倉山

THE Urbanex Kobe Okurayama

神戸大学医学部附属病院

大倉山公園

市立中央図書館

廣蔵寺(楠寺)

神戸文化ホール

大倉山駅 2min.

市立中央体育館

神戸地方裁判所

湊川神社

現地周辺航空写真(平成26年7月)



■全体物件概要 ●名称/ジ・アーバネックス神戸大倉山 ●所在地/神戸市中央区楠町7丁目3番6(地番) ●交通/神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山」駅西出口より徒歩2分、JR東海道本線「神戸」駅北出口より徒歩9分、神戸高速線「高速神戸」駅14号1出口より徒歩8分 ●用途地域/第2種住居地域・市街化区域 ●建ぺい率/39.48%(許容建ぺい率70%) ●容積率/199.99%(許容容積率200%) ●敷地面積/1,060.25m² ●建築面積/418.58m² ●建築延床面積/2,787.38m² ●構造・規模/鉄筋コンクリート造・地下1階・地上10階建 ●総戸数/30戸(住居29戸[事業協力者住戸1戸含む]、事務所1戸)、他にフロントオフィス(管理室)1戸 ●間取り/2LDK・3LDK ●住居専有面積/55.55m²~80.55m² ●住居専有面積は壁芯面積であり、登記面積は記載の面積より若干少なくなります。予めご了承ください。 ●バルコニー面積/11.01m²~35.46m² ●駐車場/7台(平面駐車場:2台、昇降機付機械式駐車場:5台) ●月額使用料:19,000円~22,000円 ●自転車置場/35台(スライドラック・月額使用料:250円) ●ミニバイク置場/5台(月額使用料:2,500円) ●建築確認済証番号/第BCJ14大建確034号(平成26年9月18日付) ●分譲後の敷地の権利形態/土地:専有面積割合による敷地利用権(所有者)の共有・建物:区分所有権 ●管理形態/管理組合結成後、株式会社長谷工コミュニティに委託(通称管理) ●竣工時期/平成28年1月下旬予定 ●入居時期/平成28年2月下旬予定 ●事業主(土地・建物売主)/大阪ガス都市開発株式会社 国土交通大臣(1)第8274号、(一社)不動産協会会員、(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟 〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2 TEL:06-4707-6308 ●事業主(建物売主)/販売提携(代理)/株式会社サンレジデンシャル 兵庫県知事(1)第11472号、(公社)全日本不動産協会会員、(公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟 〒650-0033 神戸市中央区江户町95番地井門神戸ビル TEL:078-331-0075(代表) ●販売提携(復代理)/株式会社ライフステージ 国土交通大臣免許(5)第5164号、(一社)全国住宅産業協会会員、(公社)近畿地区不動産公正取引協議会加盟 〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-5-15 TEL:06-6305-3511 ●設計・監理/株式会社アイ・オー・田中設計 ●施工/大木建設株式会社 ●管理会社/株式会社長谷工コミュニティ ●第1期7区分譲概要 ●販売戸数/1戸 ●販売価格/5,218万円 ●間取り/3LDK ●住居専有面積/80.55m² ●バルコニー面積/15.99m² ●サービスバルコニー面積/1.93m² ●管理費(月額)/15,220円 ●修繕積立金(月額)/6,440円 ●修繕積立一次金(一括)/364,000円 ●管理一次金(一括)/20,000円 ●先着順申込受付につき、ご希望の住戸が売却済み場合がございます。予めご了承ください。 ●お申込みの際には認印、収入証明書(平成25年度・26年度分の源泉徴収票等)、健康保険証、身分証明書(運転免許証等)をご持参ください。その他詳しくは係員にお尋ねください。 ●第2期予告概要 ●予定販売戸数/未定 ●予定販売価格/未定 ●管理費(月額)/未定 ●修繕積立金(月額)/未定 ●修繕積立一次金(一括)/未定 ●管理準備金(一括)/20,000円 ●間取り、面積につきましては、販売住戸が未定のため既販売住戸を除く全体概要を表示しています。 ●掲載の建物外観・建築概要につきましては、計画段階のものであり、行政上の理由等により変更となる場合があります。予めご了承ください。 ●掲載の分譲概要は平成27年2月27日時点のものです。

予告広告

「本広告を行い取引を開始するまではご予約・ご契約の受け付けは一切できません。また、申込み順位の確保に関する措置は講じられません。予めご了承ください。販売予定時期:平成27年3月上旬

事業主
(売主)



大阪ガス都市開発

事業主
(売主)



株式会社 サンレジデンシャル

お問い合わせは—

ジ・アーバネックス神戸大倉山
マンションギャラリー

0120-098-029

営業時間/
10:00~18:00(水曜定休)
※携帯電話・PHSからも通話可能です。

くすのき29

検索

www.okurayama2.jp



平成26年度臨時(社員)総会と平成27年新春学術講演会 — 成功裏での終了と情報交換会 —

一般社団法人神緑会 平成26年度臨時社員総会並びに平成27年新春学術講演会が、平成27年1月31日(土)に神戸大学医学部会館シスメックスホールで開催されました。平成26年度の最後の総会としての意義を考えると、重要な節目の会合と位置づけており、寒い日にもかかわらず、多数の会員に出席していただき感謝しています。

平成26年度 一般社団法人神緑会 臨時(社員)総会プログラム

平成27年1月31日 於・神戸大学医学部会館(シスメックスホール)

司会 大林良和 評議員会議長
会長 前田 盛

☆開会の挨拶(15:00)

☆物故会員への黙祷

☆平成26年度一般社団法人神緑会臨時(社員)総会

(15:10~15:40)

1. 議長(会長)による開会宣言
2. 議事録記名人の指名
3. 報告事項
 - 1) 各委員会報告
 - (1) 学術委員会報告(平成27年度助成事業募集について)
 - (2) 学術誌編集・広報委員会報告
 - (3) ホームページ全面更新について
4. 審議事項
 - 1) 平成27年度事業計画(記念事業を含む)について
 - 2) 平成27年度予算について
 - 3) 周年記念事業募金趣意書について
 - 4) 役員改選に伴う選挙管理委員会の設置について

☆新任教授・栄誉者紹介

(15:40~16:00)

☆新春学術講演会

(16:00~17:50)

講演-I「シグナル伝達研究の伝統と発展」

(16:00~16:50)

的崎 尚 神戸大学大学院医学研究科シグナル統合学分野 教授(昭和56年卒)

講演-II「ヒト体細胞核初期化の分子機構」

(17:00~17:50)

高橋 和利 京都大学 iPS 細胞研究所 講師

☆阪神・淡路大震災20年メモリアル事業

(17:50~18:20)

中山 伸一(兵庫県災害医療センター長、昭和55年卒)、井上 立崇(浜松労災病院消化器外科部長、平成9年卒)、藤原 恵(広島県寺岡記念病院、総合診療・地域医療課部長、平成10年卒)、竹村 幸洋(垂水病院勤務、平成12年卒)、千原 和夫(元指導教授、昭和45年卒)

☆情報交換会 於：神緑会館多目的ホール

(18:30~20:00)



受付風景

大林評議員会議長
司会

宮本常務理事



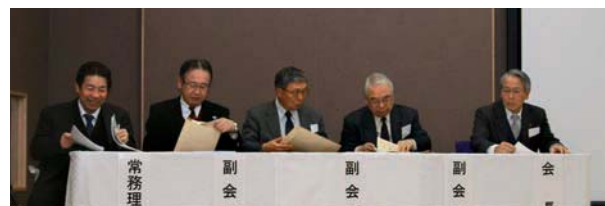
前田会長



中野副会長



大洞副会長



総会前の執行部・打ち合わせ

物故会員

従来は、死亡日の順で並べていましたが、今回から学年順に並べることにしました。物故者は47名と多数であり、その中には平成卒1名が含まれていました。総会の冒頭で全員の紹介と黙祷を行い、衷心からの哀悼の意を表しました。

平成26年物故会員

卒年	氏名	ご逝去日
S 24	永野 勝彦	2014年 1 月 4 日
S 25	国井 春生	2 月 2 日
	末定 左内	2 月 25 日
	仁科 昌郎	4 月 27 日
	山口 彦司	7 月 21 日
S 26	高橋 寛	1 月 14 日
	神野 泰	5 月 9 日
	谷口 浩	8 月 21 日
S 27	常木 長和	5 月 13 日
	越久 公雄	12 月 12 日
S 29	永田 恒雄	2 月 18 日
S 30	森 秋津	3 月 5 日
	山西 悦郎	8 月 5 日
	井上 乾三	12 月 5 日
S 31	森脇 宏	5 月 7 日
	三浦 皆美	6 月 24 日
	服部 隆男	12 月 29 日
S 33	高橋 直彦	2 月 13 日
	蟹屋敷栄一	3 月 4 日
	小寺沢正士	2013年 8 月 12 日
S 34	田中 二郎	2012年 5 月 19 日
	大野 幹人	2014年 11 月 8 日
S 35	鷺谷 理	3 月 1 日
	志水 謙次	3 月 27 日
	佐藤 哲三	2014年 3 月 25 日

卒年	氏名	ご逝去日
	高尾 良昭	9 月 9 日
	安井 祥雄	6 月 14 日
S 38	菱田 繁	3 月 15 日
	森口 爽子	2013年 9 月 28 日
	前田 明成	2014年 9 月 19 日
S 39	中野 良平	2 月 10 日
	西川 良雄	2012年 9 月 23 日
	森 英樹	2014年 10 月 31 日
S 41	山本 明	1 月 10 日
S 43	志田 力	8 月 4 日
S 45	川井 和夫	2 月 23 日
S 46	岩津 裕治	8 月 9 日
S 47	大津 俊介	9 月 27 日
S 49	長田 裕	11 月 23 日
S 51	南地 克美	2013年 6 月 20 日
S 55	川井 行雄	2014年 4 月 18 日
	濱田富三雄	4 月 28 日
	山上 久	6 月 10 日
S 59	中島 敏博	6 月 9 日
H 3	仲下まゆみ	9 月 18 日
正会員イ) (他大学卒)		
S 20	中野 恭平	9 月 15 日
S 24	金林 信雄	7 月 16 日

総数 47名

審議事項

1. 27年度事業計画

平成27年度 一般社団法人神緑会 事業計画書Ⅰ（公益目的支出計画実施事業）

1) 地域における疾病並びに医療等に関する研究調査（定款第7条第1号該当事業）

（予算総額 1,700,000円）

- (1) 「我が国およびインドネシア国慢性肝疾患における疾患進行に関わる因子の解析」 予算 500,000円

研究調査班代表者：神戸大学大学院医学研究科 感染病理学分野 講師 矢野嘉彦

研究協力者：林 祥剛（神戸大学大学院医学研究科感染病理学／病理病態学分野）、

Widya Wasityastuti、Laura Navika Yamani（神戸大学大学院医学研究科 感染病理学）

- (2) 「iPS細胞を用いる医学研究の基盤形成」

予算 500,000円

研究調査班代表者：公益財団法人先端医療振興財団 川真田 伸

研究協力者：青井 貴之（神戸大学大学院医学研究科 iPS細胞応用医学分野）、

大嶋 野歩、武田 匡史、佐々木 勉（京都大学 iPS細胞研究所）

- (3) 「公衆衛生行政（保健所）医師の育成・確保とその役割に関する研究調査

～公衆衛生行政の現状と課題をふまえて～

予算 500,000円

研究調査班代表者：神戸市保健所 所長 伊地智 昭浩

研究協力者：西尾 久英、西村 範行（神戸大学大学院医学研究科 地域社会学・健康科学講座疫学分野）、河原 啓二（姫路市健康福祉局）、今井 雅尚（兵庫県加東保健所）

- (4) 学術研究に関する資料収集（神戸大学附属図書館医学部分館）に対する援助

予算 100,000円

- (5) 医学教育用解剖献体（神戸大学のじぎく会）に対する援助

予算 100,000円

2) 学術講演会等の開催（定款第7条第2号該当事業）

（予算総額 3,000,000円）

3) 教育研究・学術交流援助（定款第7条第3号該当事業）

（予算総額 2,600,000円）

- (1) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の医学に関する学術交流基準又は教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、援助を行う。 予算 2,000,000円

- (2) 本会学術委員会の答申に基づき援助対象の海外における学会発表基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、原則として1件につき100,000円を限度として援助を行う。 予算 300,000円

- (3) 本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる女性の研究者の中から、別に定める田中千賀子学術奨励賞規定により1名の選考を行い、該当者に対して300,000円を授与する。 予算 300,000円

4) 学術誌等の発行（定款第7条第4号該当事業）

（予算総額 5,800,000円）

学術誌、広報誌ニュースレターを発行する。内容について学術誌編集・広報委員会で検討し、充実したものにす。

5) 医学部教員の海外学習に対する援助（定款第7条第6号該当事業）

（予算総額 500,000円）

6) 医学部学生の海外交流学习に対する援助（定款第7条第6号該当事業）

（予算総額 1,500,000円）

（平成27年度公益目的支出計画実施事業予算総額 15,100,000円）

事業計画書Ⅱ（その他の事業）

1) 会員名簿の発行（定款第7条第5号該当事業）

（予算総額 2,000,000円）

作成・発刊について名簿編集委員会で検討し、会員情報の維持管理に努める。

2) 情報交換会の開催

（予算総額 1,800,000円）

会員交流の場として、年2回開催する。

3) 神戸大学白衣授与式に対する援助（定款第7条第6号該当事業）

（予算総額 800,000円）

4) 神戸大学医学部医学科卒業謝恩会に対する援助（卒業記念品代）（定款第7条第6号該当事業）



- (予算総額 250,000円)
- 5) ニコニコ会に対する援助 (予算総額 250,000円)
卒後2年目、5年目クラス同窓会開催に対し援助を行う。
- 6) 大倉山祭に対する援助 (予算総額 150,000円)
- 7) 支部活動に対する援助 (予算総額 100,000円)
支部活動をさらに充実、活性化すべく、新たな支部設立や支部会実施の支援を行う。
(平成27年度その他の事業予算総額 5,350,000円)
※アンダーラインは、同窓会会計で負担していた。

事業計画書Ⅲ (記念事業)

- 1) 記念誌等の発行及び資料収集・保存 (予算総額 4,000,000円)
記念企画冊子等の発行及び明治期神戸病院以降の記録・資料を収集し保存する。
内容について記念誌委員会で検討する。
- 2) 若手研究者に対する援助 (予算総額 1,400,000円)
本会学術委員会の答申に基づき、援助対象となる若手研究者の中から、教育・研究活動基準に合致するものの選考を行い、該当者に対し、援助を行う。
(平成27年度記念事業予算総額 5,400,000円)
提案通り承認されました。

2. 27年度予算

提案通り承認されました。

3. 記念事業趣意書と寄付活動について

神戸病院145周年～150周年、神戸大学大学院医学研究科70周年～75周年記念募金趣意書は、神緑会と神戸大学医学部が一体として行うこととして会員に説明し、承認が得られました。

【記念募金趣意書の概要】

正式には、大学との協議などを経て別途、直接各個人宛てに届けます。これまで、創立30周年記念事業では、法人化の為の調査に着手しました。40周年記念事業では、式典と社団法人の認可（昭和59年2月1日）、50周年では式典と50年記念誌の発行と神緑会館建設（阪神・淡路大震災の影響で平成13年完成）、60周年では共同研究館と基礎棟の全面改修、寄附建物の建設を行いました。

今回の寄付活動を提起するに当たり、学内は過密な建築状況です。学生用の福利課外施設はかなり古いが建て替えの時期には至っておらず、トイレや体育館の床の補修等の約3千万円は医学部長裁量経費で措置されました。従って、これまでの記念活動では手が届かなかった神緑会員のソフト面の充実に取り組むこととし、神戸大学医学部医学科と神緑会のさらなる充実に役立てることとします。具体的には、

- 1) 優秀なる後輩のための奨学基金創設（医学科研究医や卒業生の留学支援など）
- 2) 記念式典および祝賀会の開催
- 3) 記念誌の発行（医学部50年誌や神戸大学100年誌の補足や新資料の発掘と周知）
- 4) 医学科及び附属病院の環境整備や神緑会支部支援

なお、目標額を当面2億円とします。

50周年記念事業（平成6年）では、医学部と神緑会が一体となって税務署に届け出て寄付者に免税処置がかなえられました。その後、60周年記念事業（平成18年）では大学が平成16年に独立行政法人となったことで免税の受け皿になりました。現在は、法人法の改正により、大学や公益法人などを介しての寄付のみが免税対象となります。そこで免税対象となる方法を神戸大学と整理・調整中です。

記念事業委員会（財務、式典、記念誌、情報の4委員会）で個別の問題を引き続き検討します。

◆ 新春学術講演会

最初に、的崎 尚神戸大学教授から「シグナル伝達研究の伝統と発展」（座長 山村博平元医学部長、名誉教授）の講演が行われた。西塚泰美元神戸大学学長、医学部教授から始まったテーマが高井、春日両教授と続き、最近の片岡 徹研究科長、的崎教授自身の研究へと発展した。

更に新しいiPS細胞研究について、山中伸弥奈良先端科学大学院大学時代の最初の大学院生である高橋和利京都大学iPS細胞研究所講師が、「ヒト体細胞核初期化の分子機構」と題して重要な研究を解りやすく講演された。山中所長以外にも神戸大学との関係が深いヒトに助けられたことを紹介しつつ、神戸での講演を楽しみながらスタートされました。2006年のiPS細胞作成の成功に浮かれることなく、初期化効率の悪さ、0.1%である本態に迫るすばらしい研究展開をウミガメの産卵から元の場所に帰ってくる確率0.1%の理由に置き換えながら明快に説明されました。最後に山中伸弥所長がアメリカ留学で切り開き、現在も毎月訪問されているグラッドストーン研究所に4月から留学する事を明らかにして聴衆の関心を更に喚起されました。

◆ 講演－I



シグナル伝達研究の伝統と発展

神戸大学シグナル伝達分野教授
副研究科長

的 崎 尚



山村座長

的 崎 尚（まとざき たかし）プロフィール

1981年	神戸大学医学部卒業
1981年	神戸大学医学部附属病院医員（研修医）
1982年	須磨赤十字病院 医師（内科）
1988年	神戸大学大学院医学研究科博士課程修了
1988年	米国ミシガン大学医学部生理学教室 Research Fellow
1993年	神戸大学 助手 医学部附属病院（第二内科学講座）
1998年	大阪大学 助手 医学部（分子生理化学講座）
2000年	大阪大学 助教授 大学院医学系研究科（生化学・分子生物学講座）
2000年	群馬大学 教授 生体調節研究所（バイオシグナル分野）
2010年	神戸大学 教授 大学院医学研究科（生化学・分子生物学講座）

講演の要旨

我が国の生命科学研究の最も秀でた研究成果の1つとして、細胞膜を場とした細胞のシグナル伝達研究があげられます。とりわけ、本学で1980年代に成し遂げられた西塚らによるプロテインナーゼCの発見は、生命科学の教科書を書き換えた画期的な成果です。その後も、1990年代の低分子量G蛋白質の発見、インスリンのシグナル伝達機序の解明に代表されるように、本学にはシグナル伝達研究の潮流とも呼べる確固とした実績があります。最近、文部科学省より定められた本医学研究科のミッションにも、シグナル伝達研究のさらなる推進が第1位に掲げられています。一方、がんを始めとする難病の原因は、その多くが細胞のシグナル伝達の異常であることが明らかにされ、シグナル伝達研究が臨床的にも重要性を増しつつあり、本学で創成されたシグナル伝達研究をより組織的に推進することが重要です。本講演では、私や医学研究科の研究室の最新の研究成果を紹介しつつ、世界最高水準のシグナル伝達研究拠点形成へ向けた本学の取り組みをご紹介します。

講演－Ⅱ



ヒト体細胞核初期化の分子機構

京都大学 iPS 細胞研究所 講師 高橋 和 利



青井座長

高橋 和 利 (たかはし かずとし) プロフィール

平成12年 3 月	同志社大学工学部 卒業
平成14年 3 月	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科修士課程 修了
平成16年 4 月	日本学術振興会特別研究員
平成17年 3 月	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科博士課程 修了
平成17年 3 月	奈良先端科学技術大学院大学博士 (バイオサイエンス)
平成18年 4 月	京都大学再生医科学研究所 特任助手
平成19年 4 月	京都大学再生医科学研究所 産学官連携助教
平成20年 3 月	京都大学物質一細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター 特定拠点助教
平成21年11月	京都大学物質一細胞統合システム拠点 iPS 細胞研究センター 特定拠点講師
平成22年 4 月	京都大学 iPS 細胞研究所 講師

講演の要旨

体細胞は OCT3/4, SOX2, KLF4, c-MYC (OSKM) の異所的な強制発現により分化多能性を再獲得することができる。この「リプログラミング」と呼ばれる現象はしばしば胚発生過程の逆戻りとして表現されるが詳細は明らかになっていない。効率が極めて低いことから、リプログラミングの進行には引き金としての OSKM に加えて、二次的な変化や阻害因子の排除といった確率論的な要素が必要であることが示唆されている。我々は OSKM を発現させた体細胞のうちリプログラミングが進行している細胞のみを特異的に選抜する方法を開発し、その遺伝子発現およびエピゲノム状態を解析した。その結果、リプログラミングの過程では、体細胞遺伝子の低下や分化多能性細胞遺伝子の上昇といった直線的な変化だけでなく、一過的な変動が起きていることを見出した。本発表では、リプログラミングの進行に必要なイベントと胚発生過程との接点について紹介する。



吉本先生 質問

◆ 阪神・淡路大震災メモリアル事業（期待以上の盛り上がりと追悼の実）

背景：神緑会としては、20年前の学生死亡の悔しさを秘めながら、今回の取り組みを行った。ただ、稲井・橋本追悼集の記録しか手元に残っていなかった。医学部医学科は冷めた感じで「特に予定はありません」。学長を中心に毎年行われていた六甲台記念碑前での追悼式典が1月16日に開催されるのに参加した。司会の事務職員など、元医学科勤務の方に相談しながら全体像が見えてきた。センター試験の関係で一日早く開催され、寒い日であったが大合唱団、混声合唱団アポロンの「花は咲く」で幕開けし、学長談話から長蛇の列の献花が続いた。遺族関係者や学内の執行部、教職員、学生でアポロンの諸君も白い制服のまま献花し涙を誘った。記念碑での中條聖子、稲井健太郎、橋本健吾の記銘は20年後も明瞭に読み取ることが出来ました。当初から、中山健一兵庫県災害医療センター長（震災時神戸大学附属病院救急部助手）を一応の講演者として約束していたが、マスコミや記念行事・討論会に引っ張りだこの忙しさと神緑会総会での30分の講演約束を取り付けるのが精一杯でした。17日前後には、神戸新聞を中心に、多くの震災特集が報道され、「17日通信一神戸大遺族の軌跡、THE 17TH の発行」や「六甲道特集」などが神戸大生を中心とした内容でした。

1月17日はご存じのように神戸市の東遊園地での記念行事に始まり、東西からのメモリアルウォーク（HAT 神戸終着）と天皇皇后両陛下御臨席での兵庫県民会議主催の記念式典は兵庫県公館と HAT 神戸会場を遠隔画面で結ぶ形で開催されました。どの会場も土曜日にも重なり、20年の節目にふさわしい盛況でした。



座長：望月 真人神戸大学名誉教授
（昭和32年卒、震災時附属病院院長、
6月21日総会で「阪神・淡路大震災
と私の憂い」の特別講演を行った。）

臨時総会当日のメモリアル事業

神緑会では、平成9、12年卒のクラス代表を通じて人選に入り、最終的に合気道部と一緒に立ち上げた井上立崇先生（浜松市）、サッカー部と一緒にだった竹村 幸洋先生（神戸市）を確保しました。学生ボランティアでは、平成10年卒の藤原 恵先生（広島）、中條先生の元指導教授の千原和夫神緑会理事の合計5名、司会に望月真人元附属病院長の布陣を揃えることが出来ました。

全員による黙祷の後、下記5名が哀悼の言葉を捧げ、続いて発表を行った。

● 竹村 幸洋（平成12年卒、垂水病院勤務）



橋本君は、岡山白陵高校の出身でした。共にサッカー部で風呂のないアパートに住んでいました。乙女塚温泉の風呂を利用し、仲良し4人でよく遊びました。私は一浪だったので20歳で郷里の成人式に出席したので地震の難を逃れました。どちらも2階が1階建てになっており、ぺしゃんこ状態で全壊でした。何時もみんな集まると大変和やかにしてくれる良い性格でした。妹さんが奈良県立医科大卒業で麻酔科医をされています。ご両親とも交流があり、サッカー部で墓参りをしています。大切な友人を亡くし大変残念ですが、橋本君の分も頑張ります。

● 井上 立崇（平成9年卒、浜松労災病院消化器外科部長）



稲井君とは、合気道部で一緒に3年までは全学クラブに所属していました。4年から医学部に合気道部を二人一緒に立ち上げました。震災の日は、寒稽古の日で運が良ければ稲井君も参加していて助かったはずですが、4年生は参加の義務がなく、地震の時は寝ていたので紙一重で亡くなり大変残念でした。徳島県出身で素朴で楽しい人でした。20周年で、合気道部の現役生が「自分たちが合気道を出来るのは稲井君のお陰」とのことでご両親を招きました。白髪が増えておられましたが長い経過の中で以

前よりは元気そうでした。4人兄弟の3番目で本当に残念でした。

● 千原 和夫（昭和45年卒、元指導教授）



医員だった中條先生は、29歳で東灘区の自宅で亡くなった。長田高校出身で島根医大卒。1年目に神戸大学附属病院、2年目に加西市民病院で研修し、大変優しく患者さんの評価が本当に高かった（歴代の病院長評価）。研究でも短時間で成果を挙げ、内分泌学会で同僚が発表した時には、全員で黙祷し、Eur.J.Endocri.にも受理された。童話作家の側面では、エピック社から「森のかんづめ」を発行し、東日本大震災後に広く読まれた。姉の中条鉄子さんが、「聖子 夢は終わらない」をエピック社（神戸市中央区）から発行された。神戸大学内で学生39名と職員2名の死亡で、神緑会員ではなかったが有能な人を失った。

● 中山 伸一（55年卒、兵庫県災害医療センター所長）



当時の震災対応は、ぶっつけ本番としては、よく頑張った。残念な点が多いが、神大病院には、初日で112名の医師、受け入れ患者366名、灘区の金沢病院では7名の医師が1033名の患者を受け入れ情報の途絶とは言え、効率面での反省があった。一方で大学病院のマンスパワーのすごさは大切でした。当時の状況の後に、JR脱線事故や東日本大震災を例にその後の活動を紹介された。1月17日の記念式典後のDMAT研修で天皇・皇后両陛下から「その後の取り組みが大分進んだんですね」と声をかけられたことを紹介した。個人的には、神戸大学から現在の兵庫県災害医療センターでの20年間、DMATと今後の備えについて中心的に活動し、大分整備が進んだと締めくくられた。

● 藤原 恵（平成10年卒、広島県 寺岡記念病院、総合診療・地域医療課部長）



「1995年阪神・淡路から20年を振り返って、被災地の復興に寄り添い、想うことー震災に学び、災害に備える」のテーマで熱く語った。本人の被災状況は深刻（死亡2学生と南北100mの中間で倒壊のため、気を失った。スチールの棚の横に寝ていて隙間で助かった）。1時間後の救出で無事だった人、溝口 明先生（55卒、現在は三重大学解剖学教授、本山第一小学校の初期ボランティアで活躍）に「病院で救助活動するように」言われて甲南病院で、その後はカナダ政府から支援されたテントでの神戸大学の雪御所公園救護所で3月末まで活動。この活動をアメリカ人が投稿するように勧めてくれたので1996年JAMAに採択されました。2011年、東日本大震災では、広島県医師会のJMATに参加し、宮城県雄勝町で「若者が働ける郷土」、津波シェルター普及や市立雄勝病院支援を行った。

なお、神緑会では関連の記念誌を収集しており、現在の保存状況は次のとおりです。

記念誌（神緑会震災文庫）

1. 阪神・淡路大震災の記録 神戸大学医学部 平成7年12月
2. 〃 事務部 平成8年
3. 〃 看護部 平成7年10月
4. 「阪神大震災」下の精神科医師たち 平成7年3月 みすず書房
5. 稲井・橋本追悼文集 平成8年3月 井上立崇 浦浜憲永編集
6. 神戸市医師会 阪神・淡路大震災記録集1995



7. 神戸神緑会、各支部 須磨区医師会他
8. 学生ボランティア 医学科学生自治会 ほか、
9. 病院が大震災から学んだこと 平成7年8月 新須磨病院 澤田勝寛（53年卒）（株）エピック
10. 病院が大震災から学んだこと 続 ―震災から10年―
平成16年12月 新須磨病院 澤田勝寛（53年卒）（株）エピック
11. 震災医療現場からの提言と報告 甲南病院元院長 老耄 宗忠 38年卒 燃焼社 平成27年1月
12. 気仙沼市立病院 東日本大震災活動記録集「今を生きる とともに未来へ」 平成24年3月 三陸印刷
13. 兵庫県知事の阪神・淡路大震災－15年の記録－ 貝原俊民 丸善 平成21年9月
14. 道を切り拓く 元神戸市長 矢田立郎 神戸新聞総合出版センター 平成27年1月
15. 聖子 夢は終わらない 中條鉄子（株）エピック

2階建てアパートが、完全に倒壊



この空間に寝ていました。



カナダ政府から寄贈されたテントで、救護所開所



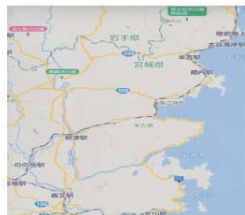
この活動を、1996年JAMAに掲載



宮城県石巻市雄勝町

仙台市から車で約1時間半

女川原発の北のリアス式海岸



津波シェルターの普及の協力



東日本大震災で、最大の犠牲者をだした 市立雄勝病院



- ・ 15mを超す津波の直撃で、3階建ての病院の屋上も飲み込まれ、入院患者40名全員、院長を含め、病院スタッフ24名、計64名が犠牲になりました。
- ・ 津波シェルターを設置していたら、助けられた人命が多くあっただろう。

◆ 新任教授・病院長・栄誉者紹介

() 内卒業年、(特) は特別会員

神戸大学関係では、藤沢正人医学部附属病院長はじめ11名、学外では慶応、日本医大、信州、金沢大学等で8名の教授が誕生しました。病院長・医師会で9名と更に、山本光昭氏が近畿厚生局長に就任されました。うれしさを通り越すほどの感激です。それぞれ、情報交換会でご挨拶いただきましたが、以前は、表彰対象者が限られており、総会の場で各3～5分の自己紹介や抱負等のご挨拶をお願いし、記念品の贈呈もありました。人数が増えて、うれしい悲鳴と言うか現在の運営システムでは収拾不能です。同級生や関係者が多く出席していただいて、お祝いを兼ねた挨拶の場として再編したいと思いますのでご意見をお願いします。

新任教授並びに栄誉者一覧

【神戸大学医学部 病院長・教授就任】

神戸大学医学部附属病院長

鹿児島大学医学部長

神戸大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・内科学分野 糖尿病・内分泌内科学部門 教授

神戸大学大学院地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 特命教授

神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域運動機能障害学分野 教授

神戸大学大学院保健学研究科国際保健学領域 感染症対策分野 教授

神戸大学大学院医学研究科生化学・分子生物学講座 薬理学部門 教授

神戸大学医学部附属病院放射線部 特命教授

神戸大学大学院病理学講座 病理診断学分野ネットワーク学部門 特命教授

神戸大学大学院地域社会医学・健康科学講座 医学教育学分野 地域医療教育学部門 特命教授

神戸大学大学院地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 特命教授

神戸大学大学院医学研究科こども急性疾患学 特命教授

（配置換え）

神戸大学医学部附属病院医療の質・安全管理部 特命教授

神戸大学大学院医学研究科腎臓免疫内科学分野 腎臓内科学部門 教授

藤澤 正人 (59)

佐野 輝 (56)

小川 渉 (59)

石田 達郎 (02)

秋末 敏宏 (04)

白川 利朗 (04)

古屋敷智之 (特)

高橋 哲 (特)

全 陽 (特)

岡山 雅信 (特)

楠 信也 (特)

森岡 一朗 (特)

味木 徹夫 (63)

西 慎一 (特)



石田教授



小川教授



白川教授



古屋敷教授



高橋教授



全教授



楠教授



味木教授



【教授就任】

信州大学学術研究院医学系医学部外科学教室 心臓血管外科 教授

日本医科大学皮膚科学教室 教授

近畿大学医学部附属病院脳卒中センター 教授

順天堂大学医学部・大学院医学研究科 公衆衛生学講座 教授

兵庫教育大学保健管理センター 教授

金沢大学医薬保健研究域 脳・肝インターフェースメディシン研究センター 生体統御学部門 教授

慶應義塾大学医学研究科 微生物学・免疫学教室 教授

宝塚医療大学保健医療学部理学療法科 教授

岡田 健次 (62)

船坂 陽子 (59)

大槻 俊輔 (61)

谷川 武 (61)

西口 直希 (05)

井上 啓 (06)

本田 賢也 (06)

高橋 秀典 (10)

【病院長・医師会長】

公立八鹿病院 院長

兵庫県立加古川医療センター 院長

神戸労災病院 院長

六甲アイランド甲南病院 院長

三田市民病院 院長

大阪府医師会 副会長

大阪市西成区医師会 会長

西脇市立西脇病院 院長

谷風 三郎 (45)

小川 恭弘 (52)

鷲見 正敏 (52)

濱辺 豊 (53)

木西 實 (54)

中尾 正俊 (54)

北野 喜彦 (55)

岩井 正秀 (57)

【栄誉者】

厚生労働省近畿厚生局長

山本 光昭 (59)



船坂教授



鷲見病院長



濱辺病院長



岩井病院長



山本栄誉者

情報交換会（会場を神緑会館に移して）

冒頭に4月の医学会総会で会頭を務められる井村裕夫先生（1971～77年神戸大学第3内科教授、その後、京都大学教授、総長、神戸中央市民病院長、現先端医療振興財団理事長）に総会運営についての挨拶をお願いしました。関西を挙げての総会とするのでお願いしたいと挨拶されました。中野康治副会長の司会で進行し、望月名誉教授の発声で乾杯し、会食に移りました。一段落後、中野副会長の司会で順次、栄誉者の挨拶に移り、新任教授、病院長、栄誉者の喜びの言葉を受けました。最後に学生の挨拶、田中邦彦副会長の挨拶で長い一日の幕引きとなりました。



乾杯の挨拶
望月眞人



井村医学会総会会頭



一般社団法人神緑会
平成27年情報交換会



学生会員



神緑会活動の現状を変えるホームページ更新の取り組み

神緑会理事会

小学生までもがスマホを保持し、「それはネット中毒です」なる記事が氾濫する昨今の状況は、多くの昭和卒世代には苦痛ではないでしょうか？それでも、今回の神緑会としてのホームページ更新の取り組みは、組織としての神緑会の将来を左右する重要な内容が含まれます。

学術誌のみからニュースレターの発行

唯一の広報誌であった学術誌は社団法人としての責務と制約を受けながら、発行を義務づけられ（国会図書館に寄贈）、白黒印刷のまま、30巻（年）に達しました。神緑会の活動の中で最大費用を使い、毎年一回各会員に送付してきました。発行時の広告費は、多少減少傾向とは言え、印刷費の5分の1程度を維持しています。特集以外は、ほぼ、毎年同じ内容でしたが、費用節約として220ページからの半減を目指しましたが、160ページ程度で推移しています。一方、「ニュースレター」発行は、神緑会への結集が悪いことへの執行部の改善対策としてスタートしました。成否不明のため、編集委員会を作らず数名の有志で同窓会事業として細々（目標20ページ）と立ち上げたにも関わらず、年4回発行し、6年目にこぎつけました。各号の上限を52ページで設定し、カラー印刷です。当初、全く集まらなかった広告費も数万円から10数万円（1社分）にもかわらずコンスタントに5社程度毎号確保出来るようになりました。偶然見られた他大学卒の方が「こんな立派な同窓会の広報誌は見たことがない」と言われたとの評価も伝わってきます。

費用節約より会員相互の交流

ホームページの内容更新は、いろんな目的で行われますが今回は、神緑会活動の周知徹底にわずかな希望を託した取り組みです。2年前の役員選挙に際し、ネットによる選挙システムの構築を目指し準備しましたが、選挙管理委員会から「セキュリ

ティ」に問題ありとなり、あえなく中断しました。郵送費用の節約と管理が両立しなかった例です。前述の学術誌やニュースレターの広報誌を会費納入の有無を問わず、住所判明者全員に送付していましたが、ニュースレターは毎号、ホームページに登録し検索可能です。郵送費が馬鹿にならないことは明白ですが、学術誌とニュースレター第2号は同時期発行とし、同時郵送を心がけて費用節約に努めています。一方で全会員への郵送を止めると、その段階で神緑会との関係が切れて、いずれ、神緑会が消滅するとの判断に至りました。昭和年代卒業者と平成年代卒業者の組織化率の違いなどで推定されます。今回の活動で、情報委員会の5名の委員とは別に平成卒8名の委員からの意見聴取で「現在の大学院世代ぐらいだとネットの記事を印刷しなくても理解するようだが、それ以前の世代は平成卒といえども印刷してじっくり読まないとは十分理解出来ない」事が解りました。この考えに反対の方もおられるでしょうが、何となく理解出来る、あるいは安心した方もおられるでしょう。郵送費の節約のみを目指すとは筋違い??? 卒業年代によるご意見をまとめた対応を考えますが学術誌とニュースレターの送付はできるだけ続けます。

新しい神緑会への期待

毎年2回の総会と1回の学術誌の発行では進まなかった神緑会と各会員の接点は、毎年4回発行のニュースレターの発行の6年間を経て、今回のホームページ更新による「会員コーナーコンテンツ」で更に接点が増えることにより、「**便利、かつ、会員相互の簡単な方法での頻繁な接触**」を経て神緑会への親密度も改善されると期待しています。

対応が遅れていますが、4月にはHP専任の事務局員を配置し、充実に努めますので長い目で育てて下さい。

新しいHPに期待すること

新しいホームページへの期待

神戸大学大学院医学研究科 シグナル伝達学分野

准教授 力 武 良 行 (平成4年卒)

神緑会の目的の一つに、同窓生が同級生、先輩、後輩を問わず、相互に親睦を図り、一体となって神戸大学医学部の発展に寄与することがあると思います。また、特に、医学部学生や若い医師の会員にとっては、自分の先輩がどこでどのような活躍をされているのかわかることは、自分の将来を決めるにあたり、大いに参考になると思います。あるいは、診療にあたっている患者さんの診断や治療のことについて相談したい場合もあるかもしれません。しかしながら、卒後研修や診療で多忙な毎日を送っている若い会員にとっては、神緑会の会合に出席してそのような情報交換の機会を得ることは、物理的あるいは心理的な距離感もあいまって、容易なことではないと想像されます。

新設された会員同士の交流サイトである会員コーナーの利用により、会員相互の情報交換をタイムリーに行うことができますので、そのような若い会員こそ、新しいホームページを活用すべきであると思います。ホームページでの交流が神緑会の会合に出席してさらに親睦を深める契機となればと思います。SNS時代に適応した新しいホームページの立ち上げにより、学年を越えた神緑会会員相互で、情報交換がより一層活発化され、親睦が円滑に図られることに多いに期待しております。

会員の活発な交流な場としてHPに期待すること

先端医療センター 総合腫瘍科

秦 明 登 (平成14年卒)

神緑会より原稿の御依頼を受け、僭越ながら意見させて頂くことになりました。正直申しまして、神緑会HPの存在をその時点で初めて知り、2015年2月からリニューアルと言われてもなんのことやら

……。ということで、HPを早速開いてみました。なかなかスタイリッシュな感じです。過去の神緑会ニュースレターがカラーのPDFで見ることができ、ついつい掲載分すべて見てしまいました。

こんな感じで、たとえ離れていても母校の動向が皆さん気になっていると思います。なので、まずはHPの存在をアピールすることが大事だと思います。まずは、メールでHPのアドレスを配信したり、ニュースレターの表紙でアピールしたり（中は見なくても表紙くらい一瞥する人は多いはず）といったことが必要だと思います。更には、Facebookとのリンクや、BBSを作ったりすることで、利用して頂ける人が増やせるのではないかと思います。

世代を問わず、同窓生が気軽に尋ね、そして参加する、そんなHPへの発展を期待しています！

神緑会ホームページ改訂に寄せて

兵庫県立塚口病院 後期研修医

池 田 太 郎 (平成23年卒)

この度神緑会ホームページが全面改訂されたとのことです。ホームページの改訂にあたって一番の目的は神緑会会員同士の情報交換の機会を設けることです。講演会の情報の発信やメールマガジンの配信、会員同士の交流、相談のコーナーも作られるとのことで、今後このホームページが交流の場として活性化することで、神戸大学の発展につながるのではと思います。特に私のような医師となつて間もない会員にとっては、今後のキャリアパスやまた研修病院の情報など、世の中にあふれている情報よりも身近な卒業生の先生から生きた情報を得る場ができたことは非常に良かったと思います。今後、現役在学生の利用も検討されるとのことで、在学生から卒業生までの交流の場となればより幸いです。せっかく綺麗になったホームページですから若手会員の先生方も是非利用しましょう！

神緑会 HP のリニューアル

情報委員会：○宮本正喜（59）、大竹郁夫（44）、前田英一（61）、
柴沼 均（H01）、秋末敏宏（H04）、矢野嘉彦（H08）、
青井貴之（H10）、池田太郎（H23）、鮫島智大（H26） ○は委員長

はじめに

神緑会のホームページ（HP）ができたのは1995年頃のことであった。それから約20年間、従来のホームページを使ってきたが、画面イメージの陳腐化、新技術の必要性、会員コーナーのさらなる活用等、長年使っている間に問題点も多くなってきた。

また、神戸大学医学部附属病院の前身である神戸病院が出来てから145年となり、国立大学へと国に移管されてから50年でもあり、記念事業の1つとして、今回ホームページのリニューアルを行うこととなった。この稿では、その概要を述べる。

1. リニューアルの経緯

現在の HP のアクセスの少なさや会員ページの活用の少なさから、会員ページの充実を計ること、および役員選挙が始まることから選挙にも役立つシステムとするための HP のリニューアルが提案された。

2014年6月から仕様書を作成し、入札方式で6社に声をかけ、2社から応募があった。

この2社からプレゼンテーション、応札仕様、見積もり等により、WEB委員会で評価し、選考を行った。費用対効果の高い社を選び、契約候補者を1社に絞りこんだ。その後、約6回の委員会や担当者会議を行い、HPのリニューアル検討を行った。

2. リニューアル HP の特徴

① CMS（Contents Management System）の導入

（CMS：Web コンテンツを構成するテキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェアのこと。）

②会員コーナー（会員の懇親を深めるため）の充実

- ・会員への重要情報、イベント情報の提供
- ・会員同士の情報の共有

③会費納入の多様化

- ・クレジットカード決済
- ・各ネットバンキングへのリンク

④メールマガジンの活用

情報が書き込まれるごとに週一回メールマガジンを発行し内容を知らせる。

⑤個人情報の自己管理

⑥スマートフォンへの対応

⑦英語ページの設定

⑧役員選挙への利用

3. 画面イメージ

1) トップページ

メイン画像は、神緑会館の全体像、拡大像、アーカイブコーナ、神戸病院の画像が順次入れ替わるようになっており、従来とは違い変化に富むページとなっている。

トップに「神緑会について」、「最新情報」、「イベント情報」、「会員コーナ」、「リンク集」が並んでおり、サブメニューがあるものはプルダウンメニューで表示され選択しやすく工夫されている。メイン画像の下部には会員コーナに入るための「ユーザー名」、「パスワード入力」画面がつづく。さらに、最新情報イベント情報がリスト状に並び、選択することで内容が表示され詳細を読むことが出来るようになっている。



【トップ画面の主画像の展開】

2) トップ画面の最新情報等

トップページのメイン画像の下方には最新情報やイベント情報の最新のものが表示される。上方の「神緑会について」のプルダウンメニューから役員を選択すると下記の様な役員一覧が表示され必要な情報が見やすくなっている。また事業計画や報告も表示されている。さらに固定的なページについては英語訳が施されており、外国人の方も神緑会について理解を深めて貰える様に工夫している。



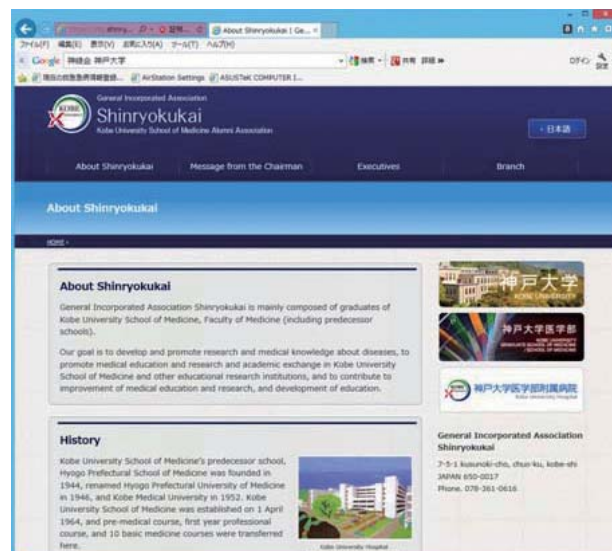
【最新情報とイベント情報】



【役員一覧のページ】



【事業計画及び報告】



【沿革等の英語画面】

3) 会員コーナ

会員コーナに入るための「ユーザー名」、「パスワード入力」項目がトップページにも表示されており、またトップのプルダウン・メニュー欄や右のメニューコーナからも入力出来るようになっている。会員コンテンツとして、「連絡先変更」、「会員フォーラム」、「会員向け最新情報」、「役員選挙」、「会費のお支払い」の項目を選ぶことが出来るようになっている。



【会員コーナ画面】



3-1) 連絡先変更

個人の住所やメールアドレス等、分かっているものについては事務局で入力しておくが、職場や住所など変わったときに自ら入力および確認ができるシステムである。

【連絡先変更画面】

3-2) 会員フォーラム

会員相互の情報共有するためのページであり、タグにより見出しを作ることが出来る。

【会員フォーラム】

3-3) 会員向け最新情報

一般の内容も必要であるが、会員だけのクローズドな情報等、会員のための情報を流すことができるようになっている。

3-4) 役員選挙

役員選挙システムについては、選挙規則の公示、立候補資料のダウンロード、立候補申請など必要な項目リストからそれぞれの機能を使用することが出来る。

3-5) 会費のお支払い

このコーナでは以下のような支払方法の案内があり、クレジット決済ではこの HP から直接支払う

【役員選挙システム】

【立候補申請画面】

ことを可能としている。

- ① クレジットカード決済 ② インターネットバンキングの案内
③ 郵便為替振込の案内 ④ 銀行振込の案内

4. 一般最新情報

トップのプルダウン・メニュー欄の最新情報のクリックにより、見出しを見ることができ、項目をクリックすることでさらに内容が展開し詳細内容を見ることが出来る。

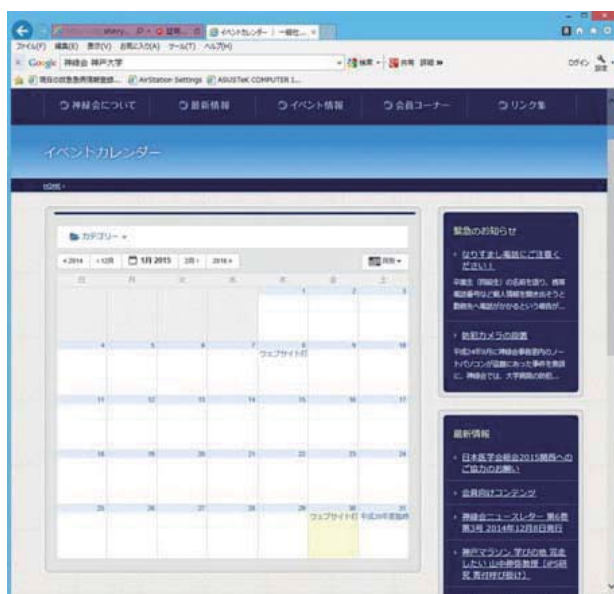
会員専用の最新情報についてはクリックすると会員番号、パスワードの入力が要求され、会員コーナーの最新情報に移行する。



【一般最新情報のリスト画面と詳細画面】

5. 一般イベント情報

トップページのプルダウン・メニュー欄からクリックすると、カレンダーが表示されカレンダーの中にイベントが描出される。イベントタイトルをクリックすると細かいイベント内容、開催日時、開催場所、開催内容等が示される。



【一般イベントのカレンダー画面と詳細画面】

6. リンクコーナ

リンク先の一覧を表示しているが、「神戸大学関連」、「神緑会会員の病院」、「神緑会会員の診療所」に分けて、多くの会員の方々のご紹介を目的に、希望によりリンクを行っている。

運営方法検討中



【リンクコーナ画面】

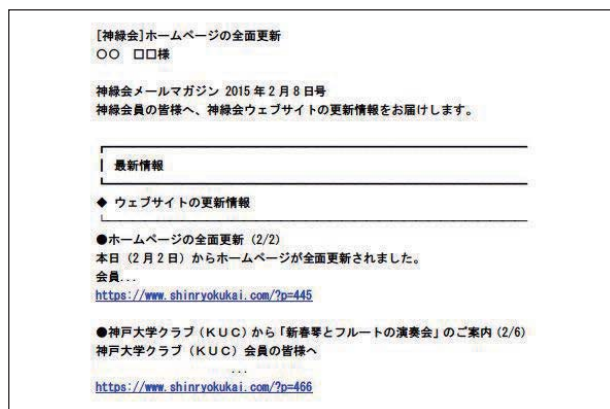
7. メールマガジンの利用について

最新情報、イベント情報、会員フォーラム、会員最新情報が加えられる毎に1週間分まとめてメールマガジンが発行され、会員にメール送信がされ、HPが変わったことが知らされる。いままでHPに関心が無かった会員にも、よりHPの存在を知って頂くために役立つことが期待されている。

おわりに

今回のHPのリニューアルで神緑会を多くの方に知って頂き、神戸大学医学部や附属病院の同窓会にも関心を持って頂くとともに、なによりも神戸大学医学部の卒業生である会員の方々との親睦の場と情報交換の場となることが望まれる。

本HPを通して会員の方々にも神緑会に親しみと懐かしみを持って頂ければ幸いです。



【神緑会メールマガジンのイメージ】

No	版数					詳細	WV種別	会員 登録	再送	フォー ラム
	1	2	3	4	5					
1	ホーム					神緑会についての紹介文、最新情報一覧等	固定ページ		○	
2	神緑会について					カテゴリー別一覧ページは無し	-			
3	会員からの報告					最新情報	固定ページ		○	
4	沿革						固定ページ		○	
5	役員・幹事						固定ページ		○	
6	定款・会費・規則・運営方針						固定ページ			
7	個人情報取り扱い						固定ページ			
8	支部						固定ページ		○	
9	事業報告・事業計画					記事へのリンクはPDFのダウンロード	投稿			
10	イベント情報					イベントカレンダー	投稿			
11	【詳細ページ】					イベントの詳細	投稿			
12	最新情報					最新情報の一覧	投稿			
13	緊急のお知らせ					緊急のお知らせの一覧	投稿			
14	【詳細ページ】					最新情報または緊急のお知らせの詳細	投稿			
15	広報誌『神緑会ニュースレター』					記事へのリンクはPDFのダウンロード	投稿			
16	会員コーナー					会員コーナーについての説明、各コンテンツへのリンク	投稿			
17	会員向け最新情報					会員向けの最新情報の一覧	投稿	○		
18	【カテゴリー別一覧ページ】					カテゴリー別一覧ページで検索可能	投稿	○		
19	【詳細ページ】					記事の詳細ページ	投稿	○		
20	会員フォーラム					メールフォーム、住所変更等の通知用	フォーラム	○		
21	ドクターQ&A					医療現場での疑問などを会員同士で質問・回答する	フォーラム	○		
22	【各トピックページ】					フォーラム内にユーザが作成したトピック(話題)ページ	フォーラム	○		
23	同窓会員のつどい					卒業生会等の交流用のフォーラム	フォーラム	○		
24	【各トピックページ】					フォーラム内にユーザが作成したトピック(話題)ページ	フォーラム	○		
25	会員プロフィール					氏名、卒業、紹介文、写真などが閲覧できる	フォーラム	○		
26	会員コーナーの利用方法					フォーラムなどの利用方法の説明	固定ページ	○		
27	連絡先変更フォーム					メールフォーム、住所変更等の通知用	固定ページ	○		○
28	会費のお支払い(※)					クレジットカード決済等の会費の支払い申込みフォーム	固定ページ	○		○
29	パスワード再発行					パスワード再発行フォーム、WVの検索システムも利用	固定ページ			○
30	リンク集						固定ページ			
31	お問い合わせ					メールフォーム	固定ページ			○

【サイトマップ】

ホームページのユーザー名(ID)及びパスワードの入力方法等

神緑会事務局

本年2月にホームページをリニューアルし、会員コーナーを追加しました。会員コーナーでは連絡先の変更、選挙システム、及び会費のカード決済などが利用可能となりました。会員コーナーの利用は神緑会会員に限定されるため、利用にはユーザー名及びパスワードを入力する必要があります。以下に、入力方法等について簡単に示します。

【ユーザー名及びパスワードの入力】

ユーザー名及びパスワードは、会員毎に個別のものを発行しています。各会員のユーザー名及びパスワードは本誌に同封した宛名用紙に記載しています。

ユーザー名とパスワードの入力方法は下記の2通りがあります。

1. ホームページのトップページで入力

トップページにある会員コーナーの入力画面で、ユーザー名及びパスワードを入力した後、**ログイン**をクリックしてください。これで会員コーナーが利用できます。



2. 会員コーナーから入力

トップページの上部の「会員コーナー」をクリックすると会員ページに移動します。次に会員コーナーのユーザー名及びパスワードを入力した後、**ログイン**をクリックします。これで会員コーナーが利用できます。



【連絡先の確認・追加、及びメールアドレスの登録】

ログインした後、会員コーナーの「連絡先変更」のコンテンツをクリックすると、既に神緑会に登録されている会員情報が表示されます。住所や勤務先に変更がある場合は、変更した後、下部の「確認」ボタンをクリックすると神緑会事務局に追加・変更内容が通知されます。

なお、メールアドレスはプロフィール編集画面から入力・変更してください（[プロフィール編集画面](#)をクリックすると移動します）。神緑会では、今後、メールマガジンを活用し、会員の皆様への情報提供を強化していく方針です。メールアドレス入力の項目の下部にあるメルマガ受信のチェックをお願いします。

また、パスワード変更も会員コーナー登録情報のページで行います。新しいパスワードを入力するとパスワードが変更されます。

連絡先変更

神緑会への登録情報を変更できます。
内容を記入の上、「確認」ボタンをクリックしてください。

会員番号	admin
卒年	2006 (平成18) 年
専攻	文学部
メールアドレス	sinryoku@med.kobe-u.ac.jp ※このアドレスに確認のメールが送付されます。 変更する場合は プロフィール編集画面 から変更してください。

お名前

名前 必須 神緑会事務局 (例: 神緑 太郎)

フリガナ 必須 シンリョクカイジムキョク (例: シンリョク タロウ)

旧姓

旧姓 (例: 神戸)

自宅

〒 650-0017

住所1 兵庫県神戸市中央区楠町7-5-1

住所2

会員コーナー登録情報

ニックネーム (必須) 神緑会事務局

ウェブ上の表示名 admin

メールアドレス (必須) sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

メルマガ受信 ☒ メールマガジンを受信する
神緑会メールマガジンを受信する場合、チェックを入れて下さい。

ウェブサイト http://www.shinryokukai.com/

プロフィール情報

神緑会事務局

会員フォーラムで表示するプロフィールを入力して下さい。

新しいパスワード

パスワードを変更する場合は新しいパスワードを入力し、変更しない場合は空のままにし

新しいパスワードを再入力

もう一度新しいパスワードを入力してください。

【メールアドレスによるログイン】

メールアドレスを登録すると、ユーザー名の代わりにメールアドレスを用いてログインすることができます。トップページ及び会員ページの会員コーナー枠からのログインを省いても、会員ページにある各コンテンツからの直接のログインが可能です。各コンテンツをクリックするとメールアドレスによるログイン画面が表示されます。この画面で、ユーザー名の代わりにメールアドレスを入力してもログインできます。

【会員コーナーコンテンツの利用方法】

現時点ではホームページに表示されていませんが、会員コーナーには会費カード決済のコンテンツも設けられます。会員フォーラム、役員選挙及びカード決済の利用方法の詳細については、会員向け最新情報として、後日、追ってお知らせします。

また、ログイン方法などで疑問点などがございましたら、事務局で対応しますので、連絡をお願いします。

文責：事務局長 三橋 隆夫

一般社団法人
神緑会 神戸大学医学部医学科同窓会
KOBE UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE ALUMNI ASSOCIATION

会員番号 または メールアドレス

パスワード

☐ ログイン状態を保存する

ログイン

京都大学 iPS 細胞研究所(CiRA)便り

国際広報室 渡 邊 文 隆

大変に寒い季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。平素より、神緑会の皆様からは当研究所へ多大なご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。今回は、遺伝子修復技術と iPS 細胞技術を組み合わせた、最新の研究をご紹介しますと思います。

iPS 細胞を使った遺伝子修復 ～デュシェンヌ型筋ジストロフィー～

CiRA 初期化機構研究部門の李 紅梅大学院生と堀田秋津助教らの研究グループは、デュシェンヌ型筋ジストロフィーの患者さんから作製した iPS 細胞において、この疾患の原因となる「ジストロフィン遺伝子」を修復することに成功しました。

ジストロフィン遺伝子は79のエクソン（遺伝子の中で最終的な mRNA になる際に残っている部分）で構成される、非常に大きなジストロフィンタンパク質の設計図です。この遺伝子の一部の塩基が欠損したり、エクソンが重複したり、欠損したりすることで、遺伝子の「読み枠」が本来のものからずれてしまうことで、ジストロフィンタンパク質が正常に作られなくなり（※）、筋ジストロフィーになります。

※遺伝子からタンパク質をつくる際には、DNA 塩基（A、G、T、C）3つの「読み枠」で一つのアミノ酸を指定している。そのため、遺伝子の途中で一つだけDNA塩基がなくなると、そこから先はアミノ酸を指定するDNAの「読み枠」が全てずれてしまい、元のタンパク質とは全く異なるタンパク質になってしまう。

患者さんから得た iPS 細胞でジストロフィン遺伝子を修復できれば新たな遺伝子治療につながると期待できますが、30億塩基で構成される巨大なヒトゲノムの中で、たった1カ所の変異だけを精密に修復するのはこれまでの技術では困難でした。

今回の研究では、遺伝子修復にTALENやCRISPRといった「ハサミ」（遺伝子改変技術）を用いしましたが、予期しない場所でDNA切断が起きないようにすることが課題でした。そこで、まずゲノム上の配列のなかから、ゲノム全体で1箇所しかない配列のデータベースを作成し、その情報を元に遺伝子の切断部位を決めました。

ジストロフィンタンパク質の機能を取り戻すためには、遺伝子の「読み枠」を戻す必要があります。今回の研究では、エクソン44の欠損が原因である患者さんの細胞を用い、3つの手法（Exon 45skipping、Reading frame shift、Exon 44knock-in）で遺伝子の修復を行いました。

この3つの戦略による実験の結果、Exon 44knock-in法が最も効果的なアプローチであることが見出されました。さらに核型解析、コピー数多型

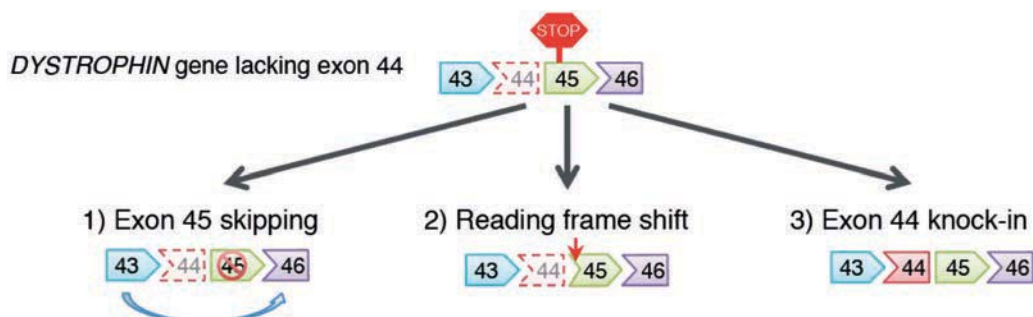


Fig. 1 ジストロフィン遺伝子を修復するための3つの戦略
44番目のエクソンが欠損すると遺伝子の読み枠が変わり、45番目のエクソンの途中でタンパク質の合成がストップしてしまい、異常なタンパク質となる。そこで読み枠を戻し、タンパク質の合成が最後まで進むようにするために上記3つの戦略を立てた。

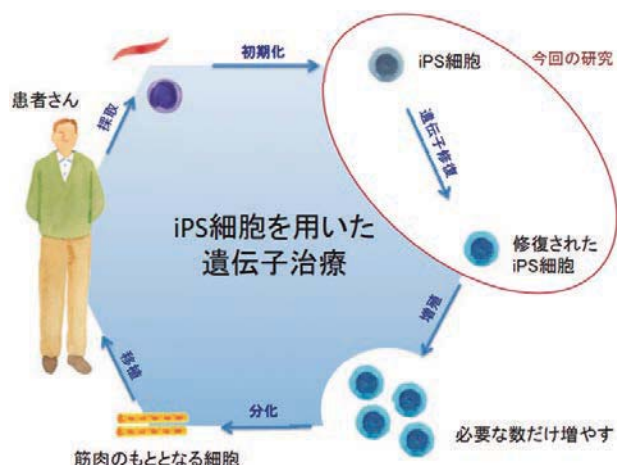


Fig. 2 iPS細胞を用いた遺伝子治療のイメージ

解析、エクソーム解析により、最も遺伝子変異の少ないクローンを選びました。最後に、選び出されたiPS細胞を骨格筋細胞へと分化させたところ、正常型のジストロフィンタンパク質を発現していることを確認できました。

これらの結果は、将来のiPS細胞技術による遺伝子治療に向けて重要なフレームワークとなることが期待されます。

論文名

Precise Correction of the Dystrophin Gene in Duchenne Muscular Dystrophy Patient iPS Cells by TALEN and CRISPR-Cas9

(2014年11月26日正午(米国東部時間)に「Stem Cell Reports」で公開)

著者

Hongmei Lisa Li¹, Naoko Fujimoto^{1,2},
Noriko Sasakawa¹, Saya Shirai¹, Tokiko Ohkame^{1,5},
Tetsushi Sakuma⁴, Michihiro Tanaka¹,
Naoki Amano¹, Akira Watanabe¹,
Hidetoshi Sakurai^{1,6}, Takashi Yamamoto⁴,
Shinya Yamanaka^{1,2,5} and Akitsu Hotta^{1,2,3,*};

著者の所属機関

1. 京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA)
2. 京都大学物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)
3. 科学技術振興機構 (JST) さきがけ
4. 広島大学大学院 理学研究科
5. グラッドストーン研究所

iPS 細胞研究基金の最近の活動

「資料請求専用フリーダイヤル」を開設しました！

iPS 細胞研究基金では、新たなご支援者を募るための取り組みとして、資料請求専用のフリーダイヤルを設けましたので、お知らせいたします。

はしれ やまなか しんや
0120-80-87-48 (受付時間：平日 9:00~17:00)

こちらの番号では、

- ・振込用紙(払込取扱票)の送付をご希望される場合
- ・研究所概要や寄付の方法が分かる資料の送付をご希望される場合
- ・インターネット上で、寄付のお手続きをしたい方からのお問い合わせ

などを、受け付けています。その他個別のお問い合わせは、従来通り以下の連絡先で受け付けております。

【連絡先】

iPS 細胞研究所 iPS 細胞研究基金事務局
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53
TEL: 075-366-7152 FAX: 075-366-7023
メール: ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp

京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。

URL は以下の通りです。

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/>

今までも これからもずっと お客さまの笑顔 神戸の街 海 空とともに それが、私たちの誇りです

ポートライナーで三宮から10分、神戸空港から8分、新幹線新神戸駅から車で20分と抜群の利便性に加え
大小36の宴会場をはじめ13のレストラン・バーを有するシティリゾート神戸ポートピアホテル。
記念日、お慶びごとをはじめ会食やパーティーなど、お客さまのご要望に合わせた素敵な時間をお約束いたします。



ホテル概要

- 客室745室(エグゼクティブフロア67室を含む) 全客室無線LAN(WI-Fi)サービス
- 宴会場36室 ■国際会議場ポートピアホール(シアター形式 1,702席、コンサートホール対応、6カ国語同時通訳設備)
- レストラン・バー13店 ■室内・屋外プール、テニスコート、ジム、サウナ、エステティックサロン、チャイルドケアルーム
- ショッピングアーケード ■駐車場450台収容
- ポートピアホテル専用無料シャトルバス(JR新神戸駅・三宮駅とホテルを結び、20分に1本運行)

ご予約・お問い合わせは・・・

Tel.078-302-1111



ポートピアホテル

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1
首都圏Tel.03-3256-5005 大阪Tel.06-6203-6800
ホームページ <http://www.portopia.co.jp>

ローンのご案内

兵医信は兵庫県医師会・兵庫県歯科医師会・兵庫県薬剤師会を設立母体とした、兵庫の医療・医薬に関わる皆さまと共に歩む専門金融機関です。

“特別金利キャンペーン”

キャンペーン期間:平成26年10月1日～平成27年3月31日まで

	介護・福祉 事業ローン	事業性 ローン	住宅ローン	オートローン
(1) 特別金利	年 1.250%	年 0.900%	年 1.450%	
(2) 標準金利	年 1.350%	年 1.000%	年 1.550%	
(1)-(2)	▲0.100%	▲0.100%	▲0.100%	

◎その他の商品についても取扱いを行っておりますので、詳しくは各営業店の融資担当者までご相談ください。

※1 本商品は変動金利型の商品です。 ※2 金利情勢等により、内容の変更を行う場合がございます。

※3 お借入に際しましては原則、社保または国保の振込指定が必要です。

※4 審査の結果によってはご希望に添えない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

◎組合への出資のお願い

出資1口の金額は1,000円となります。10口(1万円)以上のご出資を目的にお願いしております。

平成26年4月1日より

ATMご利用手数料 無料化のご案内



- 本サービスをご利用いただくには、当組合の組合員に加入していただく必要があります。
- 無料となる手数料は、他行ATMご利用時の入出金手数料及び時間外手数料です。(振込手数料は除きます)
- 一旦お支払いいただいた利用手数料は、利用月の翌月20日(休日の場合は前営業日)にお取引口座に返戻させていただきます。

(平成26年12月1日現在)

◎詳しくは各営業店までお問い合わせください。

本店営業部

TEL 078-241-5201

〒651-0086 神戸市中央区磯上通3-2-17

尼崎支店

TEL 06-6426-6288

〒661-0012 尼崎市南塚口町4-4-8 ハーティ21内

姫路支店

TEL 079-282-0177

〒670-0932 姫路市下寺町43 姫路商工会議所新館内

西宮支店

TEL 0798-36-1010

〒662-0911 西宮市池田町13-2 西宮医療会館内

兵庫県医療信用組合のホームページ <http://www.hyoishin.co.jp/>

先生の良きパートナーでありたいー
私たちはそのために頑張ります。

ジェネリック医薬品

ワクチン・衛生材料

医療機器・調剤機器

カード事業(医師協カード)

生命保険・損害保険

医業経営コンサルティング

リネン・医療用寝具リース

医療用食品・食器・厨房機器

神戸医師協同組合

本部 神戸市中央区神若通3丁目2番15号

TEL 078(241)8995番 FAX 078(231)0910

ホームページアドレス <http://www.kobe-ishikyo.or.jp>

神戸事業所 TEL 078(241)8991番(代) FAX 078(242)8251

尼崎事業所 TEL 06(6438)2561番(代) FAX 06(6438)2339

明石事業所 TEL 078(936)3535番(代) FAX 078(936)3349

姫路事業所 TEL 079(239)5725番(代) FAX 079(239)2513

西神事業所 TEL 078(795)6612番(代) FAX 078(795)7084

昭和26年3月卒業生の恩師のアルバム集

神戸大学大学院医学研究科 神経発生学分野教授 寺島 俊 雄（特別会員）

平成26年10月1日、附属図書館医学分館の地下1階機械室に重要そうな資料があるという連絡を受けて見に行ったところ、昭和26年3月卒業生の恩師のアルバム集が2冊あった。昭和26年3月に卒業するのは兵庫県立医学専門学校（県立医専と略す）の第3回卒業生（47名）と兵庫県立医科大学（県立医科大と略す）の第1回卒業生（73名）の計120名である。2冊とも横に長い和紙を折り畳んで蛇腹にした折本で、表表紙と裏表紙は厚紙で装丁されている（図1）。大きい方のアルバムの表紙は茶色で、薄く鉛筆書きで「昭和26年卒 教授」とあり、小さい方のアルバムの表紙は淡い緑色で「昭和26年卒 助教授」とある。しかし教授編にも助教授や非常勤講師の先生方の写真や色紙が多く含まれており、その区別は曖昧である。教授編のアルバムの最初の見開きページが正路倫之助県立医科大学長、次のページが県立医専初代校長の小川瑛五郎名誉顧問であるのは当然だが（図2）、それ以後の配列には何の規則性もみられない。アルバムとは1年ほどずれがあるが、昭和27年4月に発足した神戸医大の教官組織（表1）¹⁾を参考にしてアルバム集の中身を検討した。なおアルバムに写真が掲載されているものの教官組織中にその名前がない恩師の先生方が何人かいるが、いずれも死亡・退職・異動等の理由²⁾で昭和27年4月には神戸医大に在籍していなかったためである。説明の便宜のために表1中にこれらの先生方のお名前をカッコつきで示した。

アルバム中の写真で同定が難しかったのは、同一ページの下に貼付されていた2枚の写真である（図3左）。ページの下スミに鉛筆で薄く吉村とメモ書きがあること、また隣のページに達筆で「仁前田次郎」とあることより上下2枚の写真は非常勤講師の吉村寿人先生と歯科診療部長の前田次郎先生に違いない。そう思って口腔外科学の古森教授に尋ねたところ、往時を知る同門の先生方に確認を求めてくださり、下の写真が前田次郎先生であることが判明した（図3左より3枚目）。一方、神戸大学医学部50年史¹⁾、神緑会雑誌³⁾に掲載されていた吉村



図1 昭和26年3月卒業生の恩師のアルバム集
(左 教授編；右 助教授編)

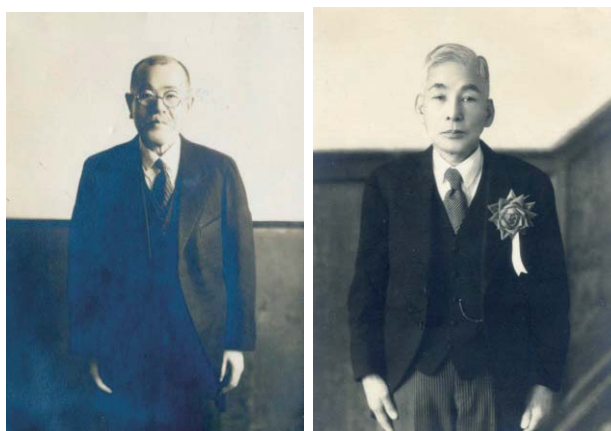


図2 正路倫之助学長（左）と小川瑛五郎名誉顧問（右）

先生の写真と比較し、上の写真を吉村先生と断定した（図3右）。図4の写真も同定に困ったが鉛筆書きで「勝」とあることより、生理学雑誌に掲載された勝義孝先生の追悼記事⁴⁾の写真と見比べ、京都府立医大教授で県立医専創設時に解剖学・生理学教授を兼任された勝義孝京都府立医大教授と同定した。図5は薬理学の松本博教授にまず間違いはないと思ったが、あまりに若い時代の写真なので少々不安が残り、田中千賀子名誉教授に尋ねた。田中先生は、間違いはないと思うが、念のためご親族に確認をとった方が良くとおっしゃり、ご子息が神戸医大を卒業し泌尿器科に入局したはずと教えていただ



表1 神戸医科大学教官組織（神戸医科大学発足当時）昭和27年4月1日現在

組 織	職 名	氏 名	図	組 織	職 名	氏 名	図
学長		正路倫之助	2, 8	産科婦人科学	講師	川島武夫	ナシ
(名誉顧問)		(小川瑤五郎)	2, 8	小児科学	(教授)	(鈴木 靖)	30
(解剖学・生理学)	(教授)	(勝 義孝)	4	小児科学	教授	平田美穂	30
解剖学	教授	武田 創	6	小児科学	助教授	伊坂 正	23
解剖学	(教授)	(岡田徳一)	25	耳鼻咽喉科学	教授	中村良太郎	31
解剖学	助教授	恒光兼介	9	耳鼻咽喉科学	助教授	値賀忠成	18
解剖学	講師	島田吉三郎	ナシ	皮膚・泌尿器科学	教授	上月 実 ^{じょうげつ}	28
生理学	助教授	川上正澄	ナシ	皮膚・泌尿器科学	助教授	佐野栄春	31
生理学	兼任講師	吉村寿人	3	眼科学	教授	井街 譲	31
医化学	教授	馬淵秀夫	11	眼科学	助教授	八十一三	7
医化学	(教授)	(楨村博介)	6	眼科学	(講師)	(有澤 武)	7
医化学	助教授	白井陽一	ナシ	眼科学	(助教授)	(盛 直之)	33
病理学	教授	岡本耕造	10	放射線医学	教授	楢林和之	24
病理学	講師	藤原忠良	ナシ	放射線医学	助教授	東野旭男	ナシ
薬理学	教授	松本 博	5	精神神経科学	教授	矢野賢治	31
薬理学	助教授	三宅 宅	ナシ	精神神経科学	兼任講師	岡田 強	ナシ
細菌学	教授	田部井 和	16	精神神経科学	兼任講師	小倉日出磨	ナシ
細菌学	助教授	塩見俊朗	17	歯科学	診療科部長	前田次郎	3
衛生学及公衆衛生学	教授	松島周蔵	27	医用英語	助教授	金子敏輔	20
衛生学及公衆衛生学	助教授	戸田嘉秋	19	衛生学	講師	赤松秋太郎	22
産業医学	教授	古沢一夫	21	医学の心理学	兼任講師	古武弥生	ナシ
産業医学	兼任助教授	川上正澄	ナシ	医事法制	兼任講師	玉木緝熙 ^{まさひろ}	32
法医学	(教授)	(黒岩武次)	29	衛生学	兼任講師	笹田 衛	ナシ
法医学	助教授	上田政雄	26	ドイツ語	兼任講師	橋寺太郎	32
第1内科学	教授	中院孝圓	29	薬局	薬局長	野口貞俊	ナシ
第1内科学	助教授	武田貞雄	12	看護部	総婦長	今井百代	ナシ
第1内科学	兼任講師	藤山一夫	ナシ	科学捜査研究所	主任(兼任)	上田政雄	26
第1内科学	講師	川崎茂夫	ナシ	弗素研究室	兼任教授	平田美穂	30
第2内科学	教授	竹田正次	29	弗素研究室	講師	近藤光雄	ナシ
第2内科学	助教授	辻 昇三	13	弗素研究室	講師	平田良雄	ナシ
第2内科学	兼任講師	仲平鉄也	ナシ	事務部	事務長	塩見義雄	ナシ
第1外科学	教授	藤田 登	15	総務課	事務職員	鈴木努	32
第1外科学	助教授	窪田秀雄	29	総務課	事務職員	吉井勝美	32
第2外科学	教授	石川善衛	15	教務課	事務職員	黒瀬竜也	33
第2外科学	助教授	佐藤陸平	30	学生課	事務職員	角野源三	33
産科婦人科学	教授	村上 清	14	学生課	事務職員	稲津良江	33
産科婦人科学	助教授	植田安雄	30				



図3 前田次郎歯科診療部長（左から3枚目）と吉村寿人非常勤講師（生理学）（右）

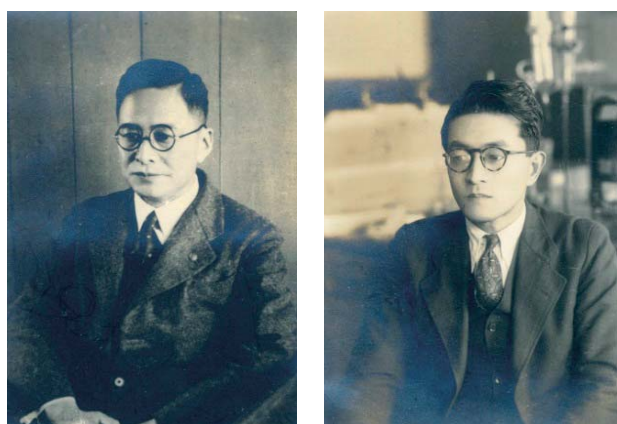


図4 勝義孝京都府立医大教授 図5 松本博教授（薬理学）

いた。神緑会の同窓会名簿で松本姓の泌尿器科出身者を探し、ご子息の松本修先生（神戸大学医学部昭和51年卒）を探し当て、写真を郵送して確認を依頼したところ「亡父に違いない」との回答を得た。この写真集のうち私が唯一生前にお会いしたことがある解剖学教授の武田創先生が教授編のアルバム集にあるのは当然だが（図6左、中）、それに良く似た写真が助教授編のアルバムにもあった（図6右）。この写真の隅に鉛筆で「榎村」とあるが、当時の教官リスト（表1）に榎村名の教官はいない。なぜ武田教授の写真が助教授編のアルバムに榎村姓で添付されているかわからないが、全体的な印象と髪型とメガネが教授編の武田先生の写真（図6中）にそっくりなので図6右の写真は武田創先生とした。しかし、その後、武田先生の愛弟子の山鳥崇名誉教授に確認を

求めたところ、印象が武田先生と少し異なるとおっしゃる。そう言われると確かに顎のラインや髪型もちょっと異なる。さらに同窓会事務局にあった「神戸医科大学史（昭和43年刊）」を借用して調べたところ、昭和19年1月に認可された県立医専の職員として榎村博介教授（医化学）の名前を見つけた（同書35ページ）。それ以後の職員録に榎村姓を見つけることができないので、設立当初のみ在籍した教員ではないだろうか。この写真が榎村博介教授であることは確定できないので、現時点では未定同定者としてのしたい。

未同定として残ったのが3枚の写真である（図7）。図7左の写真は法医学の黒岩教授と同一ページにあることより、法医学あるいは社会医学系の先生ではないだろうか。図7中の写真は助教授編のアルバム集の冒頭を飾る2名の写真で、写真のすみで鉛筆で薄く名前が書いてあるが判読しがたい。どの講座かわからないが同じ講座の助教授と講師のお二人ではないだろうか。助教授編の最終頁にある写真（図7右）もまったく手がかりがつかめないが、このアルバムの終わりの方は事務方の職員の



図6 武田創教授（解剖学）（左、中）と未同定者（榎村博介教授？）（右）

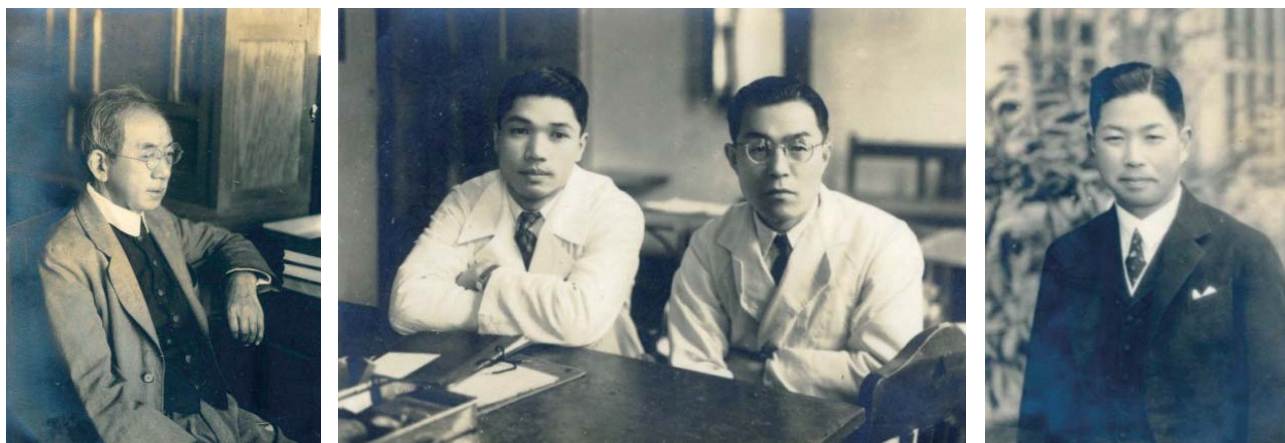


図7 未同定者として残った4名。後の調査により中の写真の左が有澤武講師（眼科学）、右が八十一三助教授（眼科学）であることが判明した。

色紙であることから塩見義雄事務部長かも知れない。この3枚の写真に含まれる計4名の方が未同定者として残った。また「盛直之」と署名のみからなるページがあるが（図33右）、この方の名前は昭和27年当時の教官組織（表1）のリストに無い。上記4名の方をご存知の方は是非知らせてほしい。実は、この原稿を投稿後、年末に高階経和先生（神戸医大昭和29年卒）お会いする機会があり、そのときに昭和29年卒の卒業アルバムをお借りした。このアルバム集の写真とそのレイアウトはプロの仕事ではないかと思うほど素晴らしく、感嘆しながらページをめくっていたら、眼科学のポリクリの写真に、図7中の写真の右側の人物に良く似た写真を見つけた。早速、スキャンして眼科学の中村教授に同定をお願いしたところ、同門の下奥仁先生（同昭和29年卒）と山中昭夫先生（同昭和32年卒）に尋ねてくださり、右側が八十一三助教授、左が有澤武講師（後に助教授）であることが判明した。また盛直之先生は、眼科学の助教授で、トラコーマウイルスの研究後、関西電力病院に転出されたという。

卒業生に贈る恩師のはなむけの言葉は実に感銘深いものがある。正路倫之助学長は「至誠廻天」と墨痕も鮮やかに揮毫している（図8左）。「至誠」とは誠を尽くすこと、「廻天」とは天を廻らすこと、つまり物や人が現状を復活することである。

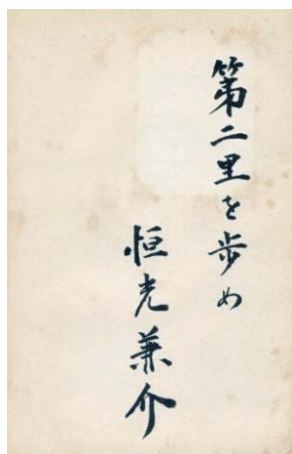


図9 恒光謙介教授(解剖学)

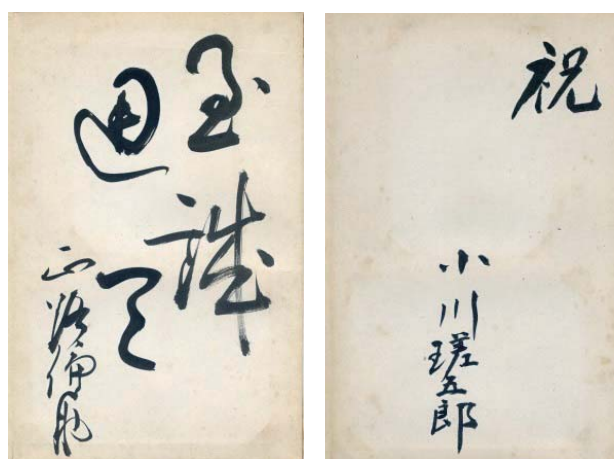


図8 正路倫之助学長（左）と小川瑛五郎名誉顧問（右）の色紙

「誠心誠意働いて灰燼に帰した戦後の日本の復興に尽そう」という気概を卒業生に示しているのだろう。

県立医専の初代校長の小川瑛五郎名誉顧問は、「祝」という一語のみ記している（図8右）。小川先生は、卒業式の2か月後の昭和26年5月30日に県立医大附属病院にて死亡する。横浜在住の小川瑛生郎様に写真（図5）を見ていただいたが、この写真が生前の最後の写真で、卒業式の後京都そして東京に出張し、その後に病に伏されたという。本人の希望により小川先生のご遺体は1年かけて交連骨格として蘇り、以後60年余の間、発足間もない神戸医大そしてその後継の神戸大学医学部の学生の骨学実習用の教育標本として解剖学実習室で供覧されている。

解剖学助教授の恒光兼介先生は、解剖学第2講座の教授に昇進後、昭和33年に社会保険神戸中央病院（現・地域医療機能推進機構・神戸中央病院）に転出された。恒光先生は「第二里を歩め」という言葉



図10 岡本耕三教授（病理学）教授



図11 馬淵秀夫教授（医化学）

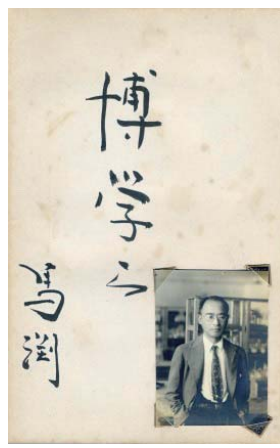


図12 武田貞雄助教授（第1内科）



図13 辻昇三助教授（第2内科）

を卒業生に残されている（図9）。「第二里」とは新約聖書の中の「人もし汝に一里ゆくことを強いなば共に二里ゆけ」（マタイ伝）がその典拠である。他人から与えられた義務的な仕事を第一里とすれば、これを自発的に選んで歩むことが第二里である。最初は人に強いられた仕事であっても自分の仕事としてこれを積極的に受け止め、真剣に取り組む人でありたいということだろう。医学生として医学教育を受ける時期を第一里とすれば、医師として社会に貢献するのが第二里だ。卒業する学生に贈る言葉として本当に含蓄ある言葉ではないだろうか。平成15年1月29日、私は解剖学第1講座の大先輩である恒光先生の通夜に参列したが、それは冬のひどく寒い日の夜だった。確か尼崎だったと思うがキリスト教会での通夜は多くの参列者で溢れ、生前のお人柄が偲ばれるものだった。この卒業生に贈るメッセージを知ってあらためてキリスト者としての恒光先生のお人柄に触れた気がした。先日、神戸中央病院の横を車で通ったときに、車を停めて広い敷地内を散策した。恒光先生が平成元年に退職された際に植えられた記念植樹を示す石碑が玄関の脇に佇んでいた。社保・神戸中央病院長を務められた恒光先生は立派に第二里の道を歩みとおされた。

病理学教授の岡本耕三先生の「君が為 葉々清風を起す」（図10）は、宋の禅僧虚堂和尚が遠く天台山国清寺に向かう三人の道友に贈った偈（仏の教を韻文で示した句）に典拠がある。二度と会えないかも知れない三人を見送ると玄関脇の竹の葉の一葉一葉が「サラサラ」と揺らぎ、まるで別れを惜しむかのように清



風を送る。卒業式は別離の時であるが、それぞれが希望に向かって歩みを進める時でもある。送る人、去る人の間の心情を竹の葉のさざめきにより起こる風に託した清々しい印象が残る言葉である。

医化学教授の馬淵秀夫先生の記した「博学之」（図11）は、中庸の一節「博く之を学び、審かに之を問ひ、慎しみて之を思い、明らかに之を弁じ、篤く之を行う」からの引用ではないだろうか。つまり広く学問を学び、詳しく問いただし、疑問を明確にし



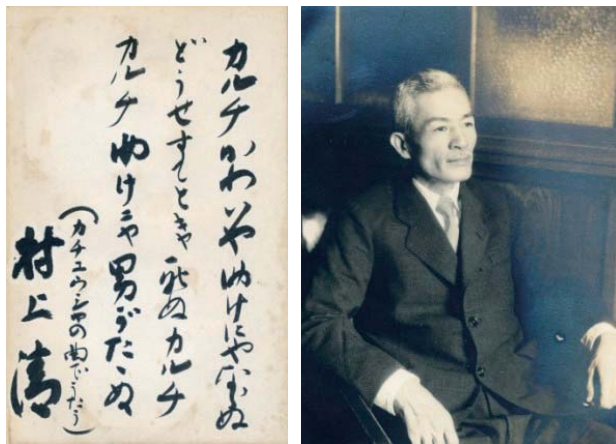


図14 村上清教授（産婦人科学）

て、信じて実行するということだろう。基礎医学研究者としての馬淵先生は、「(研究に当たっては) 幅広く文献を渉猟し、深くこれを読み込み、疑問点を抽出して、明らかにしよう」と学問の心構えを卒業生に教えているに違いない。もちろん「研究」を「臨床」に置き換えても何ら変わるところは無い。第1内科の武田貞雄助教授は「自分でよく納得する迄理解してすすみなさい」と記しているが(図12)、理を重んじる内科医らしい言葉で、馬淵先生の「博く之を学ぶ」と同じ趣旨だ。

第2内科の辻昇三助教授は、「^{やせ}地の^{かんぼく}灌木ではあるが若葉は皆美しい」という言葉を遺している(図13)。何かに典拠がありそうだがわからないので、ここは字義通りに解釈してみると、「(戦後の荒廃した世情の中で教育を受けた) 皆さんは、まるで痩せた土地に生えた灌木(背丈の低い木)のようなものだが、どんな木でも若葉が美しいように、新緑(希望)に輝いている」ということだろうか。

産婦人科の村上清教授の「カルチかわいや助けにゃならぬ(中略)カルチ助けにゃ男がたたぬ(カチューシャの曲でうたう)」には驚かされた(図14)。カチューシャの曲といえば大女優の松井須磨子が歌ったヒット曲「カチューシャの唄」で、その1番は「カチューシャかわいや わかれのつらさ…」であるが、ロシアの女性名エカテリーナの愛称カチューシャをカルチノーマ(癌)に読み替えるのだから凄い。「カルチかわいや助けにゃならぬ」に始まり、「カルチ助けにゃ男がたたぬ」と結ぶあたり、豪放磊落な外科系の医者だなと思う。

外科系といえは、第1外科の藤田登教授は、「亡者になるな 医者になる 医師になれ」と記して、金の亡者になることを諷めている(図15左)。「医者」



図15 藤田登教授（第1外科）(中左)と石川善衛教授（第2外科）(右)



図16 田部井和教授（細菌学）



図17 塩見俊朗助教授（細菌学）



図18 値賀忠成助教授（耳鼻咽喉科）

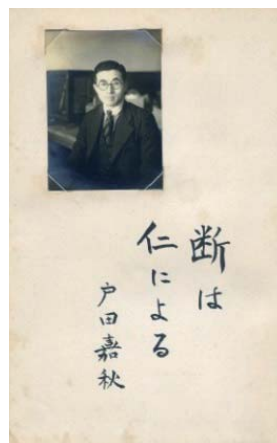


図19 戸田嘉秋助教授（公衆衛生）



と「医師」を区別してるように思えるが、私にはその区別はわからない。第2外科教授の石川善衛先生は「卒業してM.D.になったことは人工的のものである。よろしく医学の学究者として努力して欲しい」という言葉を遺しているが（図15中右）、卒業してからの努力が肝要ということだろう。

解剖学の武田教授は揮毫を求められると「誠」と墨書することが多かったが、このアルバム集でも「誠」と書いている（図6左）。武田先生が好きな言葉だったのだろうが、医師の資質として「誠」ほど大事なものはない。武田先生と同様に、細菌学の田部井和教授（図16）は「誠実真摯」、同じく塩見俊朗助教授（図17）は「誠実」と書き記している。塩見先生は京都大学医学部動物施設の育種主任になられた後に三重大医学部動物施設長に就任されていることから、動物育種の専門家ではなかったろうか。写真では羊を伴っていることより抗体作成を試みていたのだろう。耳鼻咽喉科学の値賀忠成助教授は、「誠あれば悔なし 怖なし」と「誠」の意義をより具体的に述べている（図18）。遠くを見つめる誠実そうな眼差しとヨレヨレの白衣のギャップが面白い。

「誠」と同様に医師の資質として患者を思う「仁」の心が必要だと思うが、歯科の前田次郎先生は「仁」とただ一語のみ鮮やかに書き記している（図3）。衛生学及公衆衛生学の戸田嘉秋助教授は、「断は仁による」という謎めいた言葉（図19）を卒業生に贈っている。戸田助教授の言葉の中の「断」とは「診断」ということなのだろうが、「断は仁による」には何か深い意味がありそうな気がして疫学の西尾久英教授に尋ねたら「（清にしてよく容るるあり、）仁にして断を善くす」ではないかと速攻で返

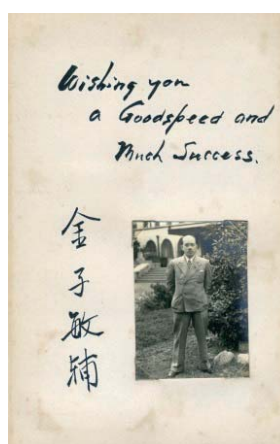


図20 金子敏輔助教授（医学英語）



図21 古沢一夫教授（産業医学）



事が返ってきたときは驚いた。人生訓を集めた中国明代の古典である葉根譚さいこんたんの中の語句であって、その意味は「（清廉であってしかも包容力がある。）思いやりがあって決断力に富んでいる。」である。一般的に清廉である人は包容力に乏しく、情に流され人は判断に迷いが生じるものである。戸田先生の卒業生へのはなむけの言葉は「医師は患者さんに思いやりをもちながら診断においては決断力をふる

いなさい」というメッセージなのだろう。「智に働けば角が立つ。情に^{さお}掉させば流される。」と夏目漱石は草枕の冒頭でとかく世間は住みにくいことを嘆いているが、情に掉さしながらも流されてはいけない医師という職業の厳しさを戸田先生は教えているのだろう。

外国語による色紙が3つほどある。まず医学英語の金子敏輔助教の「Wishing you a Good speed and much Success」という言葉（図20）の中の



図22 赤松秋太郎 講師（衛生学）

good speed とは幸運という意味である。「幸運と成功を祈る」ということだろう。金子先生については前号のニュースレターに掲載された高階経和先生のエッセイに詳しいので参照されたい⁵⁾。産業医学の古沢一夫教授は「Be ambitious with my best wishes」（大いなる野心を持って、親愛を込めて）と記している（図21）。古沢先生は変わった経歴の持ち主で、阪大を卒業直前に退学して渡英し、7年間にわたり高名な生理学者 A. V. ヒル教授の下で神経と筋肉の電気生理学や熱力学の研究を行った。神戸では産業医学講座を開設し、労働生理学の研究と産業医学の教育を行った。残念なことに全国的にユニークな存在であった産業医学講座は国立移管時に消失した。衛生学の赤松秋太郎講師は「Freundlichkeit ist der Geist des Arztes.（親切は医師の精神）」と記している（図22）。Freundlichkeit は、親切ではなくて友愛と訳すべきだろうか。

医師であれ看護師であれ、医療職に就く者は互いに信頼し合うことが大事であるが、小児科学の井坂正助教授は「広く愛せられる先生たれ」と説き（図23）、放射線医学の植林和之教授は、ずばり「信愛」



図23 井坂正助教授（小児科学）

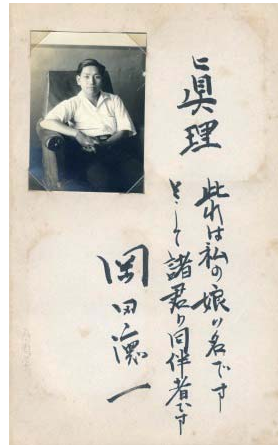


図25 岡田徳一教授（解剖学）



図24 植林和之教授（放射線医学）



図26 上田政雄助教授（法医学）



図27 松島周蔵教授（衛生学）



図28 上月実教授（皮膚・泌尿器科学）



と書くことにより医療従事者同士の信頼関係の重要性を示している（図24）。

基礎医学、臨床医学の違いはあれ、「真理」を求める道は険しく長い。解剖学の岡田徳一教授は、「真理 此れは私の娘の名です そして諸君の同伴者です」と自身のお嬢さまの名前に託して医師として真理探究を生涯の同伴者とすべきことを論している（図25）。岡田先生は若い時分に退職しているが、その後どうされたのであろう。真理の探索者としての医師のとるべき道を「廻りくどい道を憧れをもって進もう」と示したのは法医学助教授で科学捜査研究所主任の上田政雄先生である（図26）。

衛生学教授の松島周蔵教授は「戦時と戦後の二度教えた君を思ふ」と記している（図27）。戦時すなわち昭和19年に創立された県立医専に入学した学生の半数は昭和24年3月に第1回県立医専卒業生として卒業した。残りの学生は昭和21年に県立医大が認可された際に医科大学の予科に編入し、昭和26年3月に県立医大の第1回卒業生として卒業する。つまり「戦時と戦後の二度教えた君を思ふ」と

いう意味は、戦中・戦後の7年間の長きにわたり在学した卒業生を思いやった言葉ではないか。基礎校舎の天井は焼夷弾で抜け、附属病院の一部は焼失し、食べるものにも事欠いた戦中・戦後の辛い時期を共に過ごした教員と学生は、いわば一心同体で両者の絆はとりわけ深かったのだろう。

恩師の贈る言葉のなかで私が一番好きなのは皮膚・泌尿器科学の上月実教授の「おめでたう じょうげつみのる」である（図28）。この平仮名だけのはなむけの言葉はまさに脱力系で和むことこの上ない。とにかく窮屈な言葉になりがちな恩師の言葉の中で「おめでたう」は出色である。確かに卒業はそれだけで学生にとって「おめでたい」ことなのだ。現在は卒業試験に比べて医師国家試験ははるかに難しいが、昔は卒業試験は数か月も延々と続き、しかも形式は口頭試問で、学生は大いに苦しめられたから、卒業そのものがうれしかった。

とくに卒業生への贈る言葉が添えられていない写真を最後にまとめた（図29～図31）。黒岩武次教授（法医学）（図29左）は昭和25年7月に京都大学



図29（左から右へ）黒岩武次教授（法医学）、中院孝圓教授（第1内科）、竹田正次教授（第2内科）、窪田秀雄助教授（第1外科）



図30 (左から右へ) 佐藤陸平助教授 (第2外科)、植田安雄助教授 (産婦人科)、鈴木 靖教授 (小児科)、平田美穂教授 (小児科)



図31 (左から右へ) 中村良太郎教授 (耳鼻咽喉科)、佐野栄春助教授 (皮膚・泌尿器科)、井街譲教授 (眼科)、矢野賢治教授 (精神医学)

に転任し、このアルバム集が編まれた時には既がないが、昭和25年10月に開設された附属科学捜査研究所の設置に尽力した。中院孝圓教授 (第1内科) (図29左から2枚目) は、県立神戸病院で病理科兼医化学医長として勤務し、その後、ヨーロッパに留学して結核対策の必要性を痛感し、帰国後に内科呼吸器科兼病理科部長として県病で活躍された。県立医専設立後は第1内科の初代教授として呼吸器と臨床病理を担当された。県立医専の創設に尽力した附属病院長の竹田正次教授 (第2内科) の写真 (図29左から3枚目) は、本来であれば小川瑳五郎名誉顧問の次ページぐらいに掲載されるべきと思うがそうはなっていない。はなむけの言葉も添えてないのは少々残念であるが、院長職という激務を昭和23年から28年まで勤め上げた竹田先生は忙しくて学生アルバム委員と会う時間も無かったのだろう。語学が堪能だった窪田秀雄助教授 (第1外科) (図29右) は、洋書を真剣に読んでいる。窪田先生は円満な人格で教室員の兄貴的な人物であったという。髭をたくわえた佐藤陸平助教授 (第2外

科) (図30左) は呼吸器外科と心臓血管外科を担当していた。植田安雄助教授 (産婦人科) (図30左から2枚目) は、村上教授の後を継いで昭和32年に教授に就任し、甲状腺ホルモンの研究で業績を挙げたが、惜しくも在職中の昭和41年に病没された。小児科の鈴木 靖教授は、アルバム集が出た昭和26年の12月27日に死去し、同28日に大学葬が執り行われた。鈴木教授は県立病院の小児科部長として兵庫県の小児診療に長く尽された方であるが、写真の撮影時には既に病が身体を蝕んでいたのだろうか、眉間に疲労の影が忍び込んでいるように思えて切なくなる (図30左から3枚目)。鈴木教授の後を継いだ平田美穂教授 (小児科) (図30右) は、神戸医科大学の小児科初代教授であるが、弗素研究室の主任も兼任している (表1参照)。戦後、占領軍は宝塚の逆瀬川沿いの最高級住宅地を接收し、ここに米軍の高級将校を居住させたが、その高級将校の子供たちの歯に水道水中の弗素による斑状歯が出現したため大問題となっていた。進駐軍からその対策を厳しく要求された兵庫県は困り果てたが、正路学長

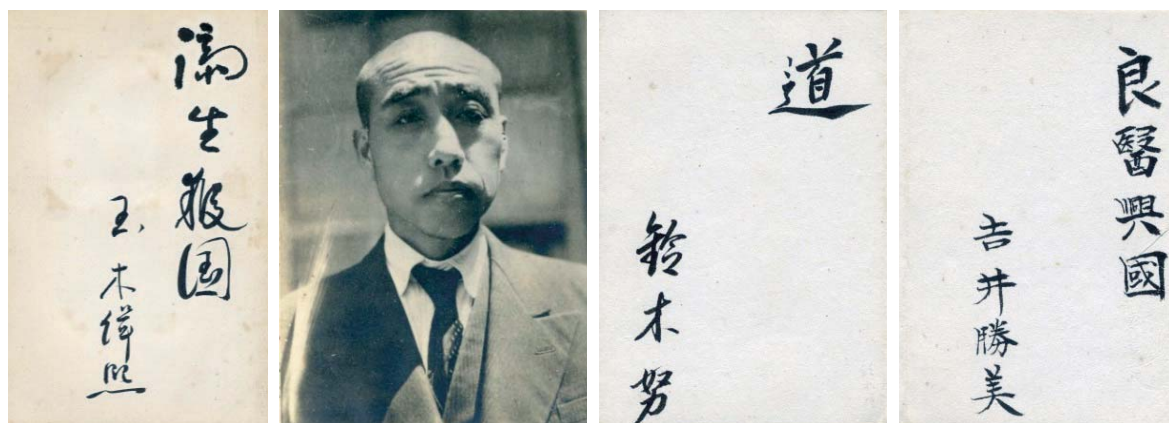


図32 (左から右へ) 玉木緝^{まさひろ}照兼任講師(医事法制)、橋寺太郎兼任講師(ドイツ語)、鈴木努事務職員(総務課)、吉井勝美事務職員(総務課)

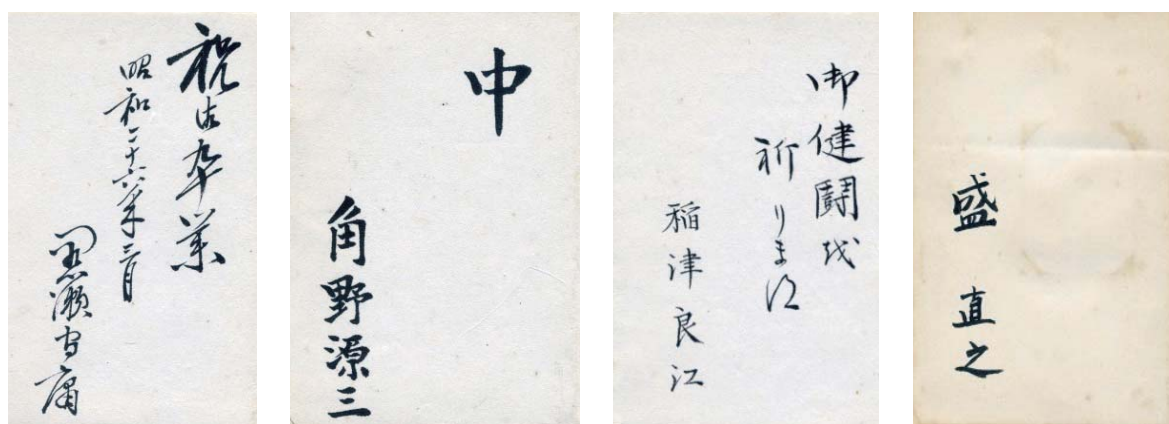


図33 (左から右へ) 黒瀬竜也事務職員(総務課)、角野源三事務職員(学生課)、稲津良江事務職員(学生課)、盛直之先生(眼科学)

の調停もあって県立医大に弗素研究室を設立することになり、平田先生がその初代の主任責任者として京大から着任する。弗素研究室は昭和33年に他の研究室に統合される形で消滅する。中村良太郎教授(耳鼻咽喉科)(図31左)は、県立病院の耳鼻咽喉科の部長から教授に就任した先生で、手が器用で非常に手術が上手だった。図31右の写真は矢野賢治教授(精神神経科)であるが、神戸大学医学部50年史では、精神神経科学講座が開設するのは昭和28年で、それまでは本学には精神科の講座は無く県立光風病院で精神科の講義と臨床が行われていたとある。昭和27年4月の職員リスト(表1)を見ると精神神経科学教授として矢野賢治先生のお名前があるから、光風病院の院長は県立医専・医大の精神神経科の教授を兼任していたのだろう。

私はこのアルバム集を見たときに、不謹慎であるが、なんてハンサムな先生方が多いのだろうと感じた。順位をつけるとすれば窪田秀雄助教授(第1外科)(図29右)を第1位、佐野元春助教授(皮膚・泌尿器科)(図31左から2枚目)を第2位、眼科の

井街教授を第3位(図31中右)としたい。窪田先生は米国ハワイ州出身の外科医で、小粋な口ひげをたくわえ、当時の看護婦さんに人気があったらしい。佐野先生は、皮膚・泌尿器科学が昭和37年に皮膚科と泌尿器科学に分離独立した際に、皮膚科学の初代教授となった方で、眉目秀麗とはこういう端正な顔を表現するためにあるのではないかと思う。佐野先生は昭和49年に母校の阪大医学部の皮膚科学教授に戻れる。井街教授は県立病院の眼科部長から教授になった方で、非常に若々しい。ハンサムというわけではないが、その茫洋とした容貌に妙に引き付けられるのがドイツ語非常勤講師の橋寺太郎先生だ(図32左から2枚目)。調べてみたところ橋寺先生は、旧制和歌山高等商業学校の有名なドイツ語教授であったらしい⁶⁾。とにかくそのドイツ語講義ときたら厳しくて旧制和歌山高商の学生の心胆を寒からしめた人らしいが、県立医専・医大のころはどうだったのだろうか。

図32中右～図33は事務方の色紙である。学生にとって事務官ことに学務課職員とは教官との交流



よりも濃いものだろう。お世話になった事務官の色紙も掲載しているところに当時の卒業生のアルバム委員の細やかな配慮が感じられる。私も学生のころに再試験の可否、学費の支払いの遅滞や奨学金などで学務課には随分とお世話になったことを思い出す。黒瀬竜也さんの色紙の自著は「竜也」とは読めない。表1中の総務課事務職員の黒瀬竜也さんとは別人のものかも知れない。

神緑会雑誌に「現在お元気でご活躍の先生、若かりし頃（その1）・（その2）」⁷⁾として掲載されている井街譲教授（眼科学）、松本博教授、竹田正次教授の写真と本アルバム集の図32、図5、図29を比較すると、本アルバムの写真の方が若い感じがする。同じ神緑会雑誌に掲載されている「故人になられた諸先生」⁸⁾の岡本耕三教授他の先生方の写真と本アルバム中の写真を比較すると、当然であるが本アルバム中の写真の方が若いときのものが多く、このアルバム集が神戸大学医学部の草創期を知る上で貴重な資料となろう。そこで全ての写真をスキャンしてデジタル化し、アルバム集とともに附属図書館文書史料室に保存を依頼した。デジタル資料は神緑会事務局にも寄贈したので、教室史を編纂するときなどは利用して欲しい。

このアルバム集が編まれたのは昭和26年3月であるから既に63年の歳月が過ぎている。私が生まれたのが昭和26年7月であるから、ほぼ私の人生と等しい時間を、このアルバム集は図書館地下の機械室で埃にまみれていたことになる。卒業生に贈った恩師によるはなむけの言葉を読むと、当時の教員の学生に対する愛情は格別なものであったことが理解できる。教員、学生の違いはあれ、戦中・戦後の厳しい時代をともに生きてきたことから教員と学生間の結びつきが強かったのだろう。教員と学生の間に心理的な離解が生じるのは昭和40年代の学園紛争をはじめとするらしい。果たして私はどんな言葉を卒業生に残すことができるだろうかと思うと暗然とするのである。

（平成26年12月12日記）

【謝辞】 恩師のアルバム集の所在を知らせていただいた附属図書館医学分館の土屋祥子様に感謝します。また写真の同定等に協力していただいた古森孝英教授（口腔外科学）、田中千賀子名誉教授、高階経和先生（神戸医大昭和29年卒）、下奥仁先生（同昭和29年卒）、山中昭夫先生（同32年卒）、松本

修先生（神大医学部昭和51年卒）、恒光昌彦先生（同昭和56年卒）、西尾久英教授（疫学）（同昭和55年卒）、中村誠教授（眼科学）（同平成元年卒）に感謝します。

【補注】

- 1) 神戸大学医学部50年史編纂委員会編（岡田安弘委員長）神戸大学医学部50年史 p. 783-786, 平成7年刊。
- 2) 昭和27当時の教官リストにないが、アルバム中に写真がある教官はカッコで示した。以下、説明を加える。県立医専の小川瑤五郎校長は昭和21年に退任し、名誉顧問に就任する。小川名誉顧問は昭和26年5月30日に死去するため、昭和27年の教官リストにその名前はない。勝義孝京都府立医大教授は、県立医専の創立時に教授（解剖学・生理学）を兼任していた。解剖学の岡田徳一教授は、昭和25年に退職する。法医学の黒岩武次教授は、昭和25年7月に京都大学医学部教授に異動する。小児科の鈴木教授は昭和26年12月27日に死亡し、翌28日に大学葬が執り行われる。
- 3) 吉村寿人 兵庫県立医科大学（本学の前身）の思い出 神緑会雑誌 1巻 p. 79~80, 1985年
- 4) 岩瀬善彦 勝義孝先生を偲んで 日本生理学雑誌 vol 55, p.351-352, 1992年
- 5) 高階経和著 ヒストリア 黎明期の神戸大学医学部に偉大な足跡を残した金子敏輔先生 神緑会ニュースレター 第6巻第3号 p. 33-40, 2014年
- 6) 三上隆三著 評伝・橋寺太郎 経済理論 333号 p.169-188, 2006年9月
- 7) 神緑会雑誌 第10巻 page 78, 1994年. 第10巻 page 85, 1994年
- 8) 神緑会雑誌 第10巻 page 86-87, 1994年

歴史展示2

記念誌編集委員会

本学医学部の母胎・兵庫県立神戸病院（開設：明治2年）145周年、兵庫県立医学専門学校（開校：昭和19年）70周年を記念する「記念誌・資料収集委員会」は、平成26年11月29日にアドバイザーである学識経験者 河島 真氏（神戸大学大学院人文科学研究科准教授）、野呂理栄子氏（神戸大学付属図書館大学文書資料室室長補佐・専門調査員）や、これまで数多くの関係著作がある住野公昭先生（昭和38年卒）のご出席を頂き、中野康治委員長・宮本正喜副委員長のもと、実質的に委員総数29名で推進されることになりました（第2回は平成27年1月24日開催）。

その際に、住野先生から自宅保管資料のご提供や河島氏・野呂氏から明治期の新聞アーカイブのご教示をいただいたほか、爾後、下奥仁先生や梶田明義先生、山中昭夫先生等、委員・会員の皆さんから「こんな資料があるけど、どうや」等とご紹介を頂いています。

では、頂いたアドバイスにより、新たに発掘できた資料をご紹介します。

これまで疑問であった点で明確化されたこと

1) 明治2（1869）年開設当時の県立神戸病院・施設配置図 部分拡大（資料1）



（資料1）神戸病院平面図

これまで4点の神戸病院・洋風建築等の写真・地図しかなかったのですが（神緑会館1Fの常設展示分）、この開院後12年の地図によると、同病院が現在の下山手通8丁目に所在したことと、さらに重要なのはその施設配置や近隣状況の一端も分かったことです。一層の実感を持ってもらえると思います。（本地図はMap of Hiogo and Kobe と題し地名は英文併記となっている）

出典：「兵庫・神戸実測図 明治14年2月刊 地理局測量課」（神戸市文書館）

2) 実態不明の楠町最初の病院 明治33（1900）年 現在地の中央区楠町に移転した。

明治32年1月3日付「神戸又新（読：「ゆうしん」）日報」には「本県新事業」として、病院開設経緯、設立寄付募集趣意書、ベッダー、ベリー、ヘイデン等お雇い外国人医師やその月給まで細かに記されています。さらに、県議会の議決を経た明治31年末の楠町移転決定工事の概要として本館2階建て133坪、その他平屋総坪数384坪、大施術所27.5坪等詳細を報じています。

下の地図は明治35年発行の「神戸市新図」（資料2）。有馬街道に沿い、県立商業学校、右隣が県立神戸病院です。（資料2）



（資料2）移転当初の神戸病院

神戸又新日報 明治33年9月19日及び同月20日の連載で、「病院巡り（4）（5）神戸病院」として、

新聞記者による視察記事を掲載している。当初の病院開設にかかる伊藤博文県知事の功績や県民とのトラブル、寄付問題と県議会からの予算削減、敷地狭小問題を経て新病院建築を迎え、院長はじめとする医学士を増強したこと等です。病院棟数85、病室55、収容人員130人。X光線室（ドイツへ発注中）をはじめ各医療施設、学生用の施設紹介、耳鼻咽喉科と小児科は特設していなかったこと、等を報じています。

（注）神戸又新日報：1883年（明治16年）～1939年（昭和14年）。「一県一紙」の第二次世界大戦時下の新聞統制により休刊、兵庫県は「神戸新聞」一紙に限定された、とする。

3）大正9（1920）年、兵庫県立病院増築

有馬街道側の商業学校火災での移転を契機に同跡地に拡大し、松方幸次郎氏（川崎財閥、川崎造船社長、政治家）、内田信也氏（実業家、政治家）等の寄付で増築、庭園等も整備しました。

大正9（1920）年8月11日付 神戸又新日報には「新式で完全な病室を県立病院に増築する。正門も有馬街道側に付替え、幽邃な（静かで奥深い）庭園も造り」とある。

（「県立神戸病院建築概要」（昭和5年刊）による説明は次号掲載）

4）伊藤博文兵庫県知事銅像（本会ニュースレター第6巻第3号・2014年12月8日発行P7-8の続き）



（資料3）伊藤博文銅像

伊藤博文公は、

初代兵庫県知事・1868年－1869年

初代内閣総理大臣1885年－1888年等

計4次総理大臣等を歴任した。

大倉山公園 昭和5（1930）年当時の写真（資料3）

（提供：神戸市文書館）

＊当初安養寺の北方にあった山を、大倉喜八郎（実業家、ホテルオークラ創業者）が所有し、後に神戸市へ寄付。昭和5年までにグランド整備など開発が進んだ。銅像は当初、湊川神社に設置されたが、日露戦争の講和条件に民衆が反発しこの銅像を引き倒した（明治38（1905）年）。この大倉山の銅像は移設拡大された巨大なものです。『藤公美談』；里村千介著（大正6（1917）年刊）によると、銅像（丈10尺、3.03m）は青銅製で、台座は30方尺（9.09×9.09m）、総高が31尺5寸（9.54m）、との説明があります。

その後、昭和17（1942）年、第2次世界大戦中に銅像本体は金属供出され、台座だけが残し、現在に至っています。



（資料4）附属病院近くの大倉山公園の台座

以上、新たに見つけた資料の一部を紹介させていただきました。

助言や情報をいただいた委員・会員の皆様に感謝を申し上げますとともに、今後ともご友人、お友達にお尋ねいただき、交流の輪をひろめ、現役学生、若手医師・研究者にも味わい深くまた一層の発展に寄与する情報となるよう、事務局も務めて行きたいと思います。

文責：神緑会事務局 西島 政夫
sinryo2@med.kobe-u.ac.jp

行政だより④

保険医療材料制度の概要

厚生労働省保険局医療課医療技術評価推進室
先進・再生医療特別評価推進係長（医療課主査併任）
松 本 千 寿（平成24年卒）

1. はじめに

保険局医療課では、2年に1度の診療報酬改定をはじめとする診療報酬に係る業務全般を担っています。ご存じのように診療報酬は保険医療機関等が行った保険医療サービスに対する対価として保険から受け取る報酬であり、個々の項目に対して診療報酬点数が定められています。これらの項目の多くは各検査や処置・手術といった「技術」に対する評価ですが、それとは別に、使用する医薬品や医療材料といった「モノ」に対する評価として保険償還価格が定められているものがあります。今回は医療材料（医療機器を含む）の保険適用について、その概要をご紹介します。

2. 保険医療材料の区分

保険医療材料は、その全てに価格設定がされているのではなく、検査料や処置料等に包括されている（使用した個別の材料費は請求できない）もの（図1：A1区分及びA2区分）と、材料自体に価格が付けられているもの（同B区分）に分類されます。さらに、技術料に包括される材料の中でも、針や糸、ガーゼ等、あらゆる診療報酬点数に包括される材料（A1）と水晶体レンズ等といった特定の技術料の中において包括される材料（A2：画像診断機器等も含む）に分かれます。個々に価格設定されている材料（B）は「特定保険医療材料」（以下、「特材」）と呼ばれ、カテーテル、人工関節等、そ

保険医療材料の評価区分

A1(包括)

いずれかの診療報酬項目において包括的に評価されているもの
(例:縫合糸、静脈採血の注射針)

A2(特定包括)

特定の診療報酬項目において包括的に評価されているもの
(例:眼内レンズと水晶体再建術、超音波検査装置と超音波検査)

価格設定をすべき保険医療材料

B(個別評価) = 特定保険医療材料

材料価格が機能別分類に従って設定され、技術料とは別に評価されているもの
(例: PTCAカテーテル、冠動脈ステント、ペースメーカー)

C1(新機能)

新たな機能区分が必要で、それを用いる技術は既に評価(医科点数表にある)されているもの(例:特殊加工の施してある人工関節)

C2(新機能・新技術)

新たな機能区分が必要で、それを用いる技術が評価されていないもの
(例:カプセル内視鏡)

F 保険適用に馴染まないもの

れらを体内に留置する技術料（手術項目の点数）とは別に材料費（特材料の点数）が請求できる仕組みになっています。なお、特材の価格は厚生労働大臣が定める告示に記載されており、次項のプロセスを経て保険適用が了承された製品についてのみ材料費を請求することができます。

3. 新規材料の保険適用に係る流れ

医療機器メーカー等が新たな医療材料を開発し、保険診療でそれらを使用するためには、薬事承認を得た上で保険適用申請し、了承されることが必要です（図2参照）。保険適用申請の際、A1区分若しくは既存のA2区分又はB区分に該当する製品の場合、新たに価格設定は行いませんので、申請の受理後一定期間を経て保険適用が開始されます。しかし、使用の際に現在診療報酬項目にはない技術を要すると思われる材料や、改良等によって既存の価格とは違う（より高い）評価を希望する場合等には、それぞれC2、C1区分として保険適用申請を行い、保険医療材料専門組織において区分の評価および価格についての議論が行われ、C区分と評価された材料

は中医協（中央社会保険医療協議会）の承認を経て保険償還価格が決定されます。

4. 新規材料の価格決定方法

C1、C2区分で保険適用申請が出された場合の価格決定（図3）は、主に「類似機能区分比較方式」で行われます。既にある特材の機能区分のうち最も似ているものと比較し、その機能区分の償還価格に所定の加算を付けた価格を新たな機能区分の償還価格とする方法です。加算の種類には画期性加算、有用性加算、改良加算があり、専門組織においてはその加算率を含め、どのような評価とするかが決められます。類似機能区分がない場合は原価計算での価格となります。さらに、外国平均価格との調整や、迅速な保険導入に対する加算の対象となる製品については価格調整が行われ最終的な償還価格が決定されます。加算率の割合は、前例等を参考に検討されますが、その基準が曖昧であるという課題に対して、今年度より定量的評価について検討が開始されているところです。

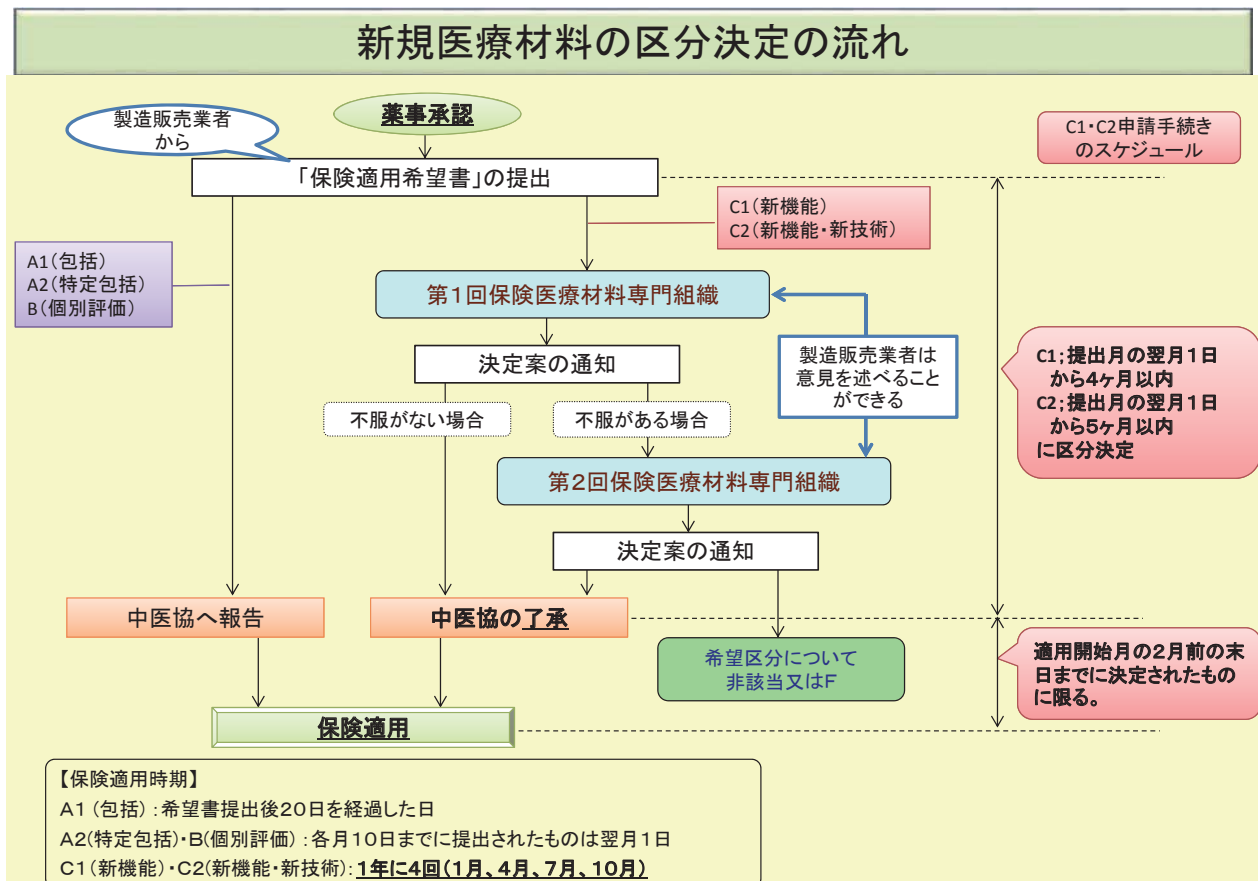


図2

5. 薬価制度との違い

少し話は逸れますが、そもそも特材の価格決定方法は薬価制度に倣って作られました。そのため価格決定の方法や後述する加算の種類も薬価と材料はとても似ていますが、特材の価格制度には薬価のそれと大きく違う点があります。医薬品の場合、同じ効能を持つ医薬品でもメーカー・製品毎に違う薬価が定められていますが、特材では機能区分毎に価格が定められています。使用目的、構造等が同じ（同一機能区分）であれば、全ての製品は同じ償還価格となります。医療材料メーカーには零細企業も多く、数十万品目にも及ぶといわれている医療材料に対して個々の評価が困難であることが大きな理由の1つであるといわれています。

6. 診療報酬改定時の取り組み

これまで説明した材料価格や材料制度そのものもまた、診療報酬点数と同様2年に1度見直しが行われます。特材の償還価格については市場実勢価格に合った価格となるよう、全ての価格が見直され

ます。また、長年にわたり我が国の材料価格は海外よりも大幅に高いといった指摘があり、内外価格差の是正を行うべく制度の見直しを行っています。一方でイノベーションに対する適切な評価がされる仕組みである必要があるため、今後もよりよい制度にすべく議論を進めていかなければなりません。

7. おわりに

現行制度では医療材料の保険適用に製造販売企業が主体として関わる仕組みであるため、この制度に対する医療現場からの注目度は決して高くありません。制度自体が未熟である一方、医療材料の市場規模は拡大してきており、制度の在り方について今後さらなる改革が求められるのではないかと感じております。診療現場で種々の医療材料を使われている先生方にも是非興味を持っていただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

※本稿は、8月15日神戸大学で行われた厚労省関係者の講演内容ですが、1号遅れとなりました。

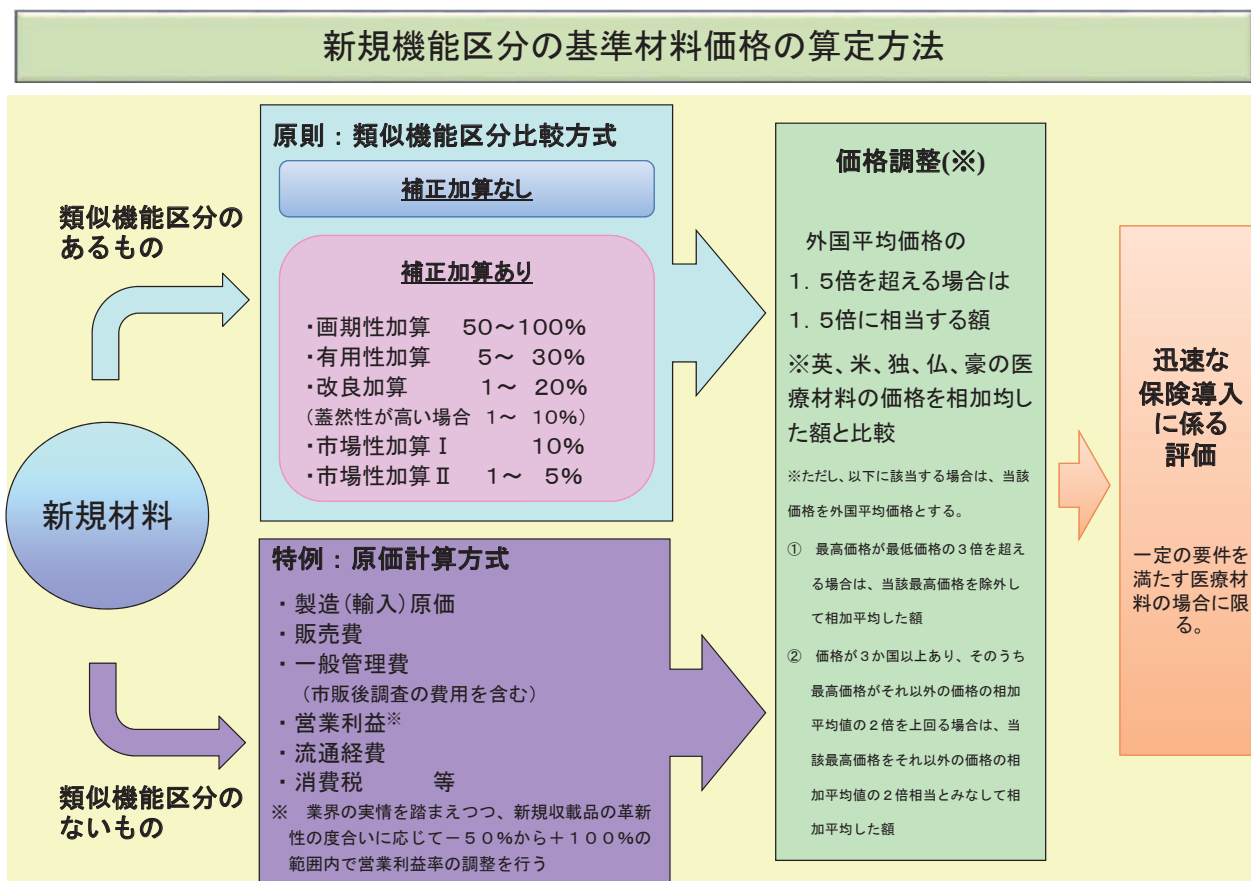


図3

病院紹介

医療法人社団純心会パルモア病院からのご挨拶

理事長 前田隆史（昭和41年卒）、副理事長 前田計子（昭和49年卒）、
院長 山崎峰夫（昭和56年卒）、副院長 横山直樹（昭和63年卒）、
小児科部長 三宅 理（平成3年卒）



病院前景

パルモア病院は、京都府立医大教授であった三宅廉博士が、「こどもの健やかな成長のためには新生児期からの管理が求められ、そのためには産科と小児科が協力しあう体制が必要」、という今でこそあたりまえながら当時としては画期的な周産期医療の理念のもと、1956（昭和31）年に創立されました。

母子医療のパイオニアとして、当院はその後長く地域の皆様に支えられ、平成13年にはNHKのプロジェクトX～挑戦者たち～に取り上げられるなど、神戸の名門周産期施設としての信頼を得て参りました。

しかし、医療機能が順調であったのとはうらはらに、経営面では平成17年頃より問題が発生していました。当院創立にあたって多大な援助を受けた英会話学校パルモア学院との間に発生した資産に関わる係争です。その法的收拾がつくまでに長い時間がかかりましたが、その結果を受けて当院は資金難となり、平成25年10月31日付けで民事再生手続き開始決定の裁定がなされました。

その後、当院は創立者の周産期医療への理念保持と地域における第一線母子医療施設としての医療

機能存続を目標に、さまざまな再建計画を模索しました。民事再生法適用の前後を通じ、再建に向けての支援要請を行った法人数は実に30を超えています。その中で香川県善通寺市に本拠を置く医療法人社団純心会は神緑会同門として早くから関心を示していました。理事長はもともと神戸市出身、副理事長は小児科医である上、学生時代パルモア病院で小児科実習を受けたという縁からいずれも「パルモア病院」の果たしてきた役割を了知していました。さらに、院長をはじめ後輩の同窓生が奮闘している状況を見て、この病院を潰してはならないとの思いがあったからです。その後、紆余曲折を経て、2014年12月1日をもって、旧医療法人財団パルモア病院は事業譲渡され、新しく医療法人社団純心会パルモア病院が新たに発足いたしました。これで、今後当院は再生債務者としての制約を受けることなく、産科・小児科の地域医療に専心することができるようになりました。

当院と神緑会との関係性は、従来それほど強いものではありませんでしたが、平成26年4月の山崎院長の就任後、それが強化されました。そして、この

たびの当院の危機に際しては、神緑会の多くの先生方にご相談させていただき、ご激励をいただきました。いろいろとご仲介の労を取っていただきました。神緑会の先生方にこのように言葉に尽くしがたいほど大変お世話になりましたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。そして、今回、純心会が当院を運営することになり、さらに神緑会とのつながりが深まりました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

純心会は、香川県において、善通寺前田病院を運営するほか、介護福祉事業施設を幅広く営んでいます。法人としては、小児科診療を営んでおりますが、産婦人科医療については初めて取り組む医療分野ということになります。しかし、地域において医療介護福祉事業を発展させてきた実績から、「サービス業としての医療」や、「社会に向けての情報発信」、あるいは、「透明な経営体制」に関して具体的な戦略を数多く蓄えてきました。したがって、今後のパルモア病院はこれらのノウハウを受け継いで、母子医療分野における輝かしい歴史にさらに新たな発展を加えていく所存です。

パルモア病院の特色は、産婦人科、小児科、麻酔科、内科、いずれの診療科にも周産期の領域を専門として取り組んできた医師が、安全と安心の母子医療を実現していることです。特に、産科各種合併症の早期発見や管理、産科麻酔を専門とする医師による無痛分娩や、新生児から小児期にいたるこどもの一貫した診療体制、などに自信をもって取り組んでいます。また、産科医師と助産師の緊密な連携、無理のない母乳哺育指導、などをメインに、高度な医療判断と、妊産褥婦や新生児・乳幼児に対するきめ細かなケア、を同時並行的に実施しています。お産と子育てを主とする医療施設としてどこよりも安心・安全・快適・満足のいく母子医療を実現することを目標としております。

なお、5年前より進めてきた東灘区への移転計画は完全に撤回し、元町駅北側の立地のまま、現施設の内装をリニューアルすることで、減少してしまった顧客数回復をめざしたいと考えております。

神緑会の諸先生におかれましては、新生パルモア病院に対して何卒ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

医療法人社団純心会パルモア病院

650-0012 神戸市中央区北長狭通4-7-20

電話：078-321-6000 FAX：078-333-8236

<http://www.palmore.or.jp>



病院所在地



【法人ロゴマーク】

左のマークは心という字をイメージして作りました。これから「母」になる女性の希望に満ちた心を想い、安心して出産に臨んで頂くことを最大の目標とします。また、病気の子供たちの病気のみでなく心も癒すことをとても大切なことと考えています。このように純心会のシンボルマークは基本理念「想いと優しさ」を表現しています。



【病院ロゴマーク】

創立者の三宅廉の理念に基づいたロゴマークです。上弦の月は、新月から満月になる中間の状態、未完成なものが完成に向かって進んでいくことを意味しています。そして、キリスト教における愛と奉仕を表す十字のマークにより創立者の理念である「善いサマリア人」の教えの実践のために日々研鑽していくものであることを示しています。

選挙管理委員会の発足

平成27年は神緑会の役員選挙が行われます。

1月31日の臨時総会で選挙管理委員として大洞慶郎（H46卒）、味木徹夫（H63卒）、三浦靖史（H1卒）、青井貴之（H10卒）、傳 秋光（正会員イ：S48卒）の5名が承認されました。

2月21日に第1回選挙管理委員会が開催され、委員長に味木徹夫先生が選出されました。役員選挙は6月20日の定時総会で実施されますが、選挙告示等の案内・通知はホームページや文書郵送により順次、お知らせいたします。

なお、選挙人及び被選挙人の資格として、「2年を越えて会費を滞納していないこと」の条件がありますので、会費は忘れずに納入して下さい。

選挙管理委員会 委員長 味木 徹夫

●● 第29回日本医学会総会2015関西、参加のお願い ●●

特別プログラムとして（敬称略）

4月11日（土）〈午前〉

- ・開会講演 京都大学 iPS 細胞研究所 所長・教授
山中 伸弥「iPS 細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」
- ・会頭講演 第29回日本医学会総会 2015関西 会頭
井村 裕夫「日本の未来のために、いま医学・医療は何をなすべきか」
- ・日本医師会会長講演 日本医師会長
横倉 義武「日本医師会の医療政策～健康な高齢社会の構築を目指して～」

4月11日（土）〈午後〉

- ・日本医学会会長講演 日本医学会長 高久 史磨「わが国の医学研究の方向性」

4月13日（月）〈午後〉

- ・記念講演 聖路加国際大学名誉理事長・名誉学長 日野原重明「日本における高齢化と真の健康社会」

*以上の「特別プログラム」は、国立京都国際会館メインホールで開催予定です。

神緑会は同医学会総会の「一般公開展示」として、神戸国際展示場3号館ホワイエで、神戸大学医学部に関係した医学史及び元神戸大学長^故西塚泰美、山中伸弥所長の業績展示を行います。一部、国立移管が同時期であった山口、岐阜大学の発展についても展示します（3月28日（土）～4月5日（日））。神緑会員の皆様はご家族・ご友人とお誘いあわせ是非ご来場ください。

*「一般公開展示」は、神戸国際展示場3号館です。

編集後記

15ページ記載のように、神緑会の広報活動は年一回の学術誌のみ(30巻)からニュースレターの充実(第6巻第4号)を経て「ホームページの会員ページの創設」へと更に一歩進めつつあります。当初12ページからスタートし、身の程知らずの感もありながらページ増(48～52ページ)と広告確保まで進んだニュースレターですが、同窓会事業に分離していました。昨年6月総会で社団法人神緑会と同窓会神緑会が一本化されましたので、今後は広報誌活動全体を学術誌(広報誌)編集委員会に統一運営します。なお、当面は記念事業に伴う記念誌委員会とも連携します。

毎号のように活躍していただいている神戸大学大学院医学研究科 神経発生学分野 寺島俊雄教授の原稿により改めて刺激された感のある昭和19年発足の医学専門学校から県立医科大学に至る歴史の正確な整理・記述を進める必要があります。60周年記念事業として初期の卒業生による「座談会」を行い、その内容は学術誌第20～21巻に掲載しました。不十分な点を補充する最後の機会として関係者のご協力をお願いします。

学生の方原稿は、試験期間中でもあり掲載できなかったが、学生や若手医師の方原稿を掲載するよう努力します。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。 学術誌広報委員会

神緑会ニュースレター 第6巻第4号

発行 一般社団法人神緑会
会長 前田 盛
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5-1
神戸大学医学部内
TEL (078)361-0616
FAX (078)361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷 交友印刷株式会社
〒650-0047
神戸市中央区港島5丁目4-5
TEL (078)303-0088
FAX (078)303-1320
info@koyu-p.co.jp